

PORTATONE

DIGITAL ENTERTAINMENT KEYBOARD

PSR-60 PSR-50

取扱説明書



contre: solopette, de
Petit Baurel. Sur cette
roye, bordures et col-
é (Silvia Confessioni).
- 70-
doj. Page ci-contre: pull à col mon-
tant tricoté à côtes anglaises (012
Bennetton).
LA MODA OLIMPIONICA
Page 133. Temps de jeux olympiques
symboles des jeux imprimés
vi si.
OLIMPIADI AL "VIA"
Pages 134-135. Maillots de bain
roytes en bois (l'Atle Dippert) et
peignoir (Giglius Lizordi); memes
sujets dans les petites photos de la
page ci-contre. En haut: maillots de la
bain à roytes multicolores (Flo-
rence Estmani). T-shirt imprimé (Ma-
ster Junior). Colifurtes: Woody
(Compton, Los Angeles). Pages 136-
37. Débordur avec bande verte
ouge sur le côté et short blanc
Snoopy.
T-shirt
Mail-
Ferra
de Los Ange-
Sur cette page
bermuda en co-
tifs howariens (P
contre: un vaca-
chapeau, des lu-
ne chemise imp-
Fleurs avec poche
Armani) et un bas
nochio per kaff.
157. Sur la page
marinière royée. La
(Fre Pui), bermuda
zenitales (Creation
zer blanc (Kopocia
page, en haut: mail-
courtes manches big
imprimé devant (Gu
Boy) et bermuda roy
souple: combinaison
rolle, grandes poch-
suees, fermée velc
(Enrico Cover).
me (Schubijet)
oton à roytes
blanches (C
Chapeau (B
body Com

YAMAHA

ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータートーンPSR-60・PSR-50をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

PSR-60・PSR-50は、ヤマハが世界に誇るデジタル技術の粋を結集して完成させた、未来型のエンターテイメントキーボードです。オーケストラ音色にはFM音源、リズムにはPCM音源を採用し、情感豊かな音色と生の迫力を伝える多彩なリズムを実現しました。また、デジタル楽器の統一規格、MIDI端子を装備。シンセサイザーやコンピュータと接続し、新たな音楽シーンを生み出します。そして、PSR-60には、シンセ感覚を手軽に楽しめるユニークなソロ音色や鍵盤でリズムをたたき出せるキーボードパーカッション機能、さらに内蔵のRAMに3トラックで演奏をメモリーし、それを外部テープに保存できるインターフェイス機能も備えました。

オールデジタルキーボードならではの数々の機能をコンパクトにまとめたPSR-60・PSR-50。そのキーボードプレイの可能性は大きく拡がりました。

本書では、その魅力を充分お楽しみいただけるように正しい取扱い方をご説明しています。実際に操作しながら、ぜひご一読ください。

もくじ

	ページ
ご使用の前に	1
各部の名称とそのはたらき	2
ポータートーンのセット	5
オーケストラ	5
ソロ PSR-60のみ	6
■オーケストラとソロの効果的な使いかた	7
リズム	8
■キーボードパーカッション PSR-60のみ	9
オートベースコード1<シングルフィンガーコード>	10
■コード早見表<シングルフィンガーコード>	12
オートベースコード2<フィンガードコード>	13
■コード早見表<フィンガードコード>	14
ミュージックプログラマー PSR-60のみ	16
■「いとしのエリー」を弾いてみましょう	18
テープ〔カセットインターフェイス〕 PSR-60のみ	20
付属端子とオプション	21
MIDI	22
LET'S PLAY	
あの娘とスキャンダル	26
ヒア・ゼア&エブリウェア	28
ムーンライト・セレナーデ	29
ネバーエンディング・ストーリー	30
故障と誤りやすい現象	32
仕様	34
MIDIインプリメンテーションチャート	35

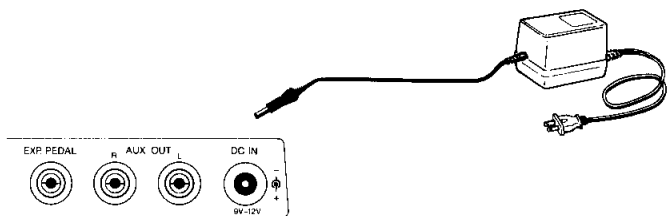
ご使用の前に

ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

1. 電源について

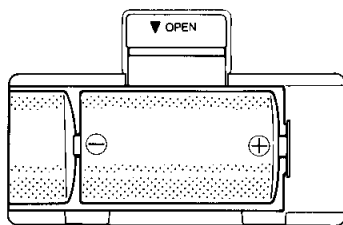
ポータートの電源は、家庭用コンセントと電池の両方を使用することができます。

●電源アダプター(PA-4)の接続方法



ポータートの本体背面には、図のような付属端子がついています。電源アダプターの〔PA 4〕は、AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器ですから、DC IN (9-12V) 端子へ接続して電源を供給してください。

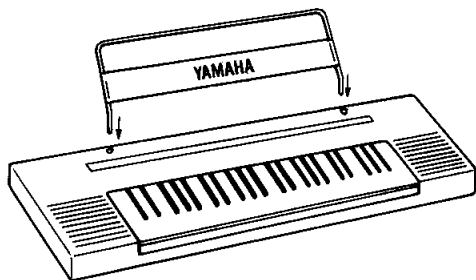
●電池の入れ方



まず、本体裏面にあるケースのふたを取ります。単1の乾電池を一行に6個入れます。このとき⊕⊖の方向をまちがえないようにご注意ください。電源スイッチを入れたとき、スイッチの下のパイロットランプが点滅していたら、電池がなくなりはじめています。新しい電池をご用意ください。また取りかえの時は全部新しい電池と交換してください。

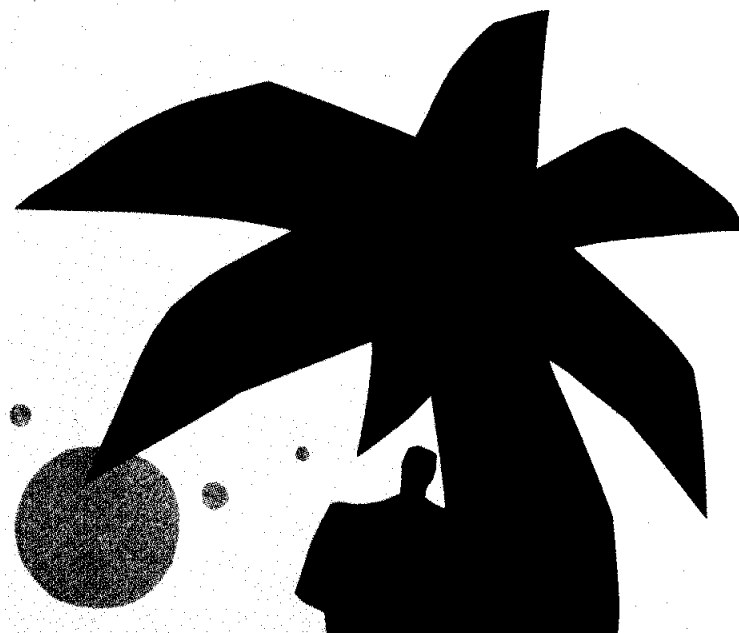
2. 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、楽器の上にある2つの穴に、その両端を差しこんで、ご使用ください。



3. 取扱上の注意

- ①直射日光が当たったり、暖房器具のそばなど極端に暑い場所に置くことはさけてください。本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。
- ②特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- ③過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。
- ④本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきをするか、よごれのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。
アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。
また、塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があります。
- ⑤ご使用後は、必ずパワースイッチを切ってください。



各部の名称とそのはたらき

☆くわしくは()内のページを参照してください。
また、付属端子については2ページを参照してください。

オートベースコード《自動伴奏》(10~15ページ)

リズム(8~9ページ)

⑤ オフ

[オートベースコードを使用しない時に押すボタンです。]

⑥ シングルフィンガーコード

[指1本で自動伴奏をする時に押すボタンです。]

⑦ フィンガードコード

[和音を押えて自動伴奏をする時に押すボタンです。]

⑧ メモリー

[鍵盤から指を離しても自動伴奏を続けるようにするボタンです。]

⑨ ベースボリューム

[オートベースコードのベース音の音量を調節するレバーです。]

⑩ コードボリューム

[オートベースコードのコード音の音量を調節するレバーです。]

⑪ ハンドクラップ1・2

[このボタンを押すとリズムに合わせて手拍子加わります。1・2の両方を同時に使用することもできます。もう一度押すとキャンセルされます。]

⑫ バリエーション

[リズムおよびオートベースコードの音色やパターンを変化させるボタンです。]

⑬ リズムセレクト

[リズムの種類を選ぶボタンです。2度押すと、上下反対がわのリズムになります。]

⑭ リズム・ボリューム

[リズムの音量を調節するレバーです。]

⑮ テンポコントロール

[リズムのテンポを調節するレバーです。]

① パワースイッチ/パイロットランプ(5ページ)

[スイッチをONすると数秒後にパイロットランプが点灯し、電気が通じます。]

③ ピッチ(5ページ)

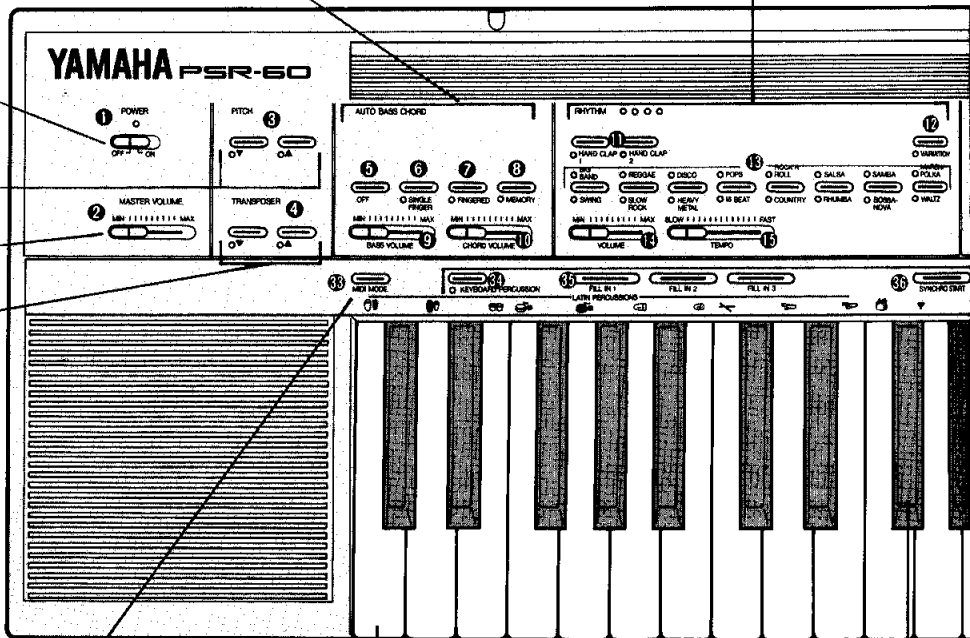
[音程のチューニングをするボタンです。]

② マスターボリューム(5ページ)

[全体の音量を調節するレバーです。]

④ トランスポージャー(5ページ)

[キーを変える時に押すボタンです。]



■PSR-60

ヘッドホン端子
(21ページ)

MIDI (22~25ページ)

ⓂMIDIモード

[MIDI端子を使用する時、このボタンを押しながらパネルを操作してMIDIモードの切り換えをします。]

オートベースコード用鍵盤

[オートベースコードを使用して自動伴奏する時、伴奏を受けもつ鍵盤です。]

キーボードパーカッション用鍵盤

[キーボードパーカッションをONした時、打楽器としてたたく鍵盤です。]

オーケストラ (5~7ページ)

16 トゥ・ロー

[オーケストラ音色を低音部鍵盤で使用する時に押します。高音部鍵盤は自動的にソロ音色になります。]

17 デュエット/トリオ

[オートベースコードを使用している時、「デュエット」を押せば1音、「トリオ」なら2音のコード音がメロディーに加わり、厚みのあるサウンドが得られます。]

18 サステイン1・2

[オーケストラ音色に自然な余韻をつけるボタンです。1と2の2種類が選べます。もう一度押すとキャンセルされます。]

19 ステレオシンフォニック

[ボタンを押すと音がまわり、広がりのある効果が得られます。もう一度押すとキャンセルされます。]

20 オーケストラ音色セクター

[オーケストラ音色を選ぶボタンです。2度押すと上下反対がわの音色になります。]

21 オーケストラ・ボリューム

[オーケストラ音色の音量を調節するレバーです。]

22 オーケストラ

[オーケストラ音色を使用する時に押すボタンです。]

ソロ

(6~7ページ)

23 サステイン

[ソロ音色に自然な余韻をつける効果のボタンです。もう一度押すとキャンセル]

24 ソロ音色セクター

[ソロ音色を選ぶボタンです。同じボタンを2度押すと上下反対がわの音色]

ミュージックプ

27 レコード (ソロ・オーケス

[演奏を記憶させる時に押]

28 プレイバック (ソロ・オ

[記憶させた演奏を再生す]

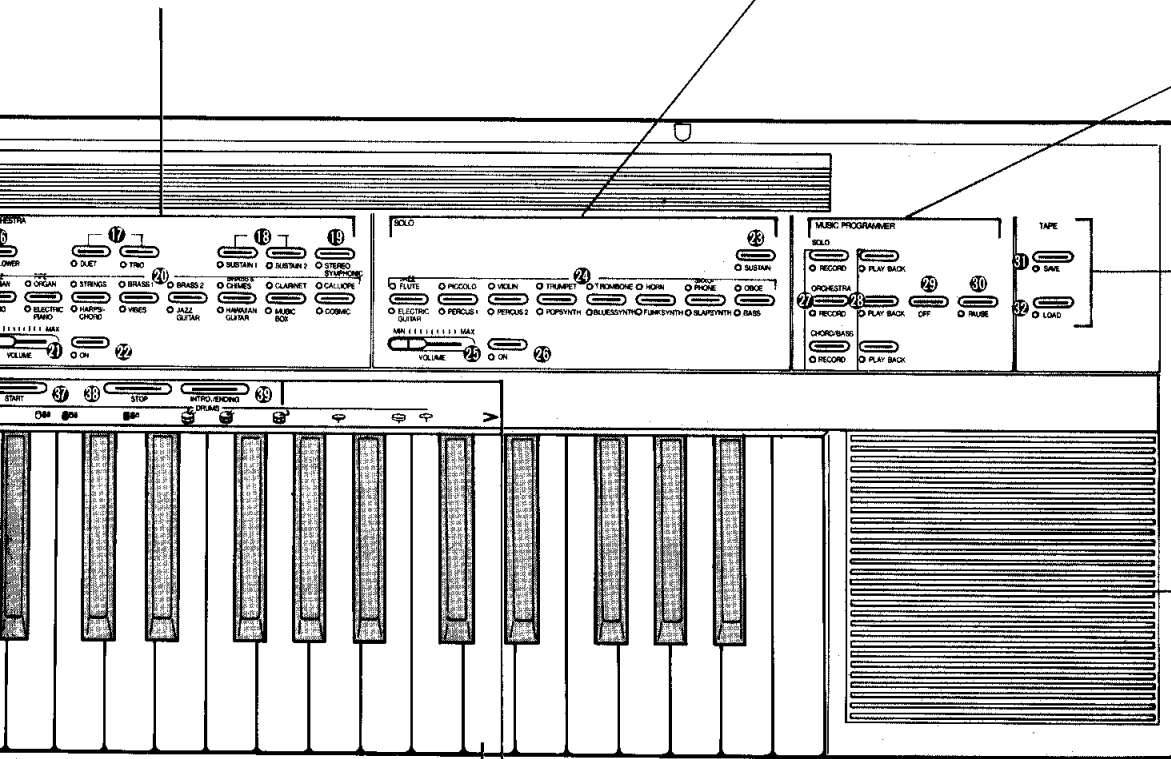
テープ (20ページ)

31 セーブ

[ミュージックプログラマーにテープにデジタル信号で記]

32 ロード

[外部テープに記憶させた押します。]



スピーカー

リズム (8~9ページ)

34 キーボードパーカッション

[鍵盤を打楽器として使用する時に押すボタンです。もう一度押すとキャンセルされ、鍵盤はノーマル状態に戻ります。]

35 フィルイン1・2・3

[一時的にリズムを変化させるフィルインを使用する時に押します。1・2・3の3パターンから選べます。]

36 シンクロスタート

[オートベースコード用鍵盤を押えると同時にリズムをスタートさせるボタンです。]

37 スタート

[リズムをスタートさせるボタンです。]

38 ストップ

[リズムを止めるボタンです。]

39 イントロ/エンディング

[イントロカウントでリズムをスタートさせる時や演奏の終わりにカッコよくキメたい時に押すボタンです。]

フィルイン・タッチバー (PSR-60のみ)

[鍵盤下に軽く触れるだけでフィルインをかけることができます。]

オーケストラ (5~7ページ)

16 トゥ・ロワー

「オーケストラ音色を低音部鍵盤で使用する時に押します。高音部鍵盤」
「は自動的にソロ音色になります。」

17 デュエット/トリオ

「オートベースコードを使用している時、「デュエット」を押せば1音、「トリオ」
「なら2音のコード音がメロディーに加わり、厚みのあるサウンドが得られます。」

18 サステイン1・2

「オーケストラ音色に自然な余韻をつけるボタンです。1と2の2種類が選べ
「ます。もう一度押すとキャンセルされます。」

19 ステレオシンフォニック

「ボタンを押すと音がまわり、広がりのある効果が得られます。もう1度押すと
「キャンセルされます。」

20 オーケストラ音色セクター

「オーケストラ音色を選ぶボタンです。2度押すと上下反対がわの音色に
「なります。」

21 オーケストラ・ボリューム

「オーケストラ音色の音量を調節するレバーです。」

22 オーケストラ

「オーケストラ音色を使用する時に押すボタンです。」

ソロ (6~7ページ)

23 サステイン

「ソロ音色に自然な余韻をつける効果のボタンです。もう1度押すとキャンセル

24 ソロ音色セクター

「ソロ音色を選ぶボタンです。同じボタンを2度押すと上下反対がわの音色

ミュージックプレイ

27 レコード (ソロ・オーケス

「演奏を記憶させる時に押

28 プレイバック (ソロ・オ

「記憶させた演奏を再生す

テープ (20ページ)

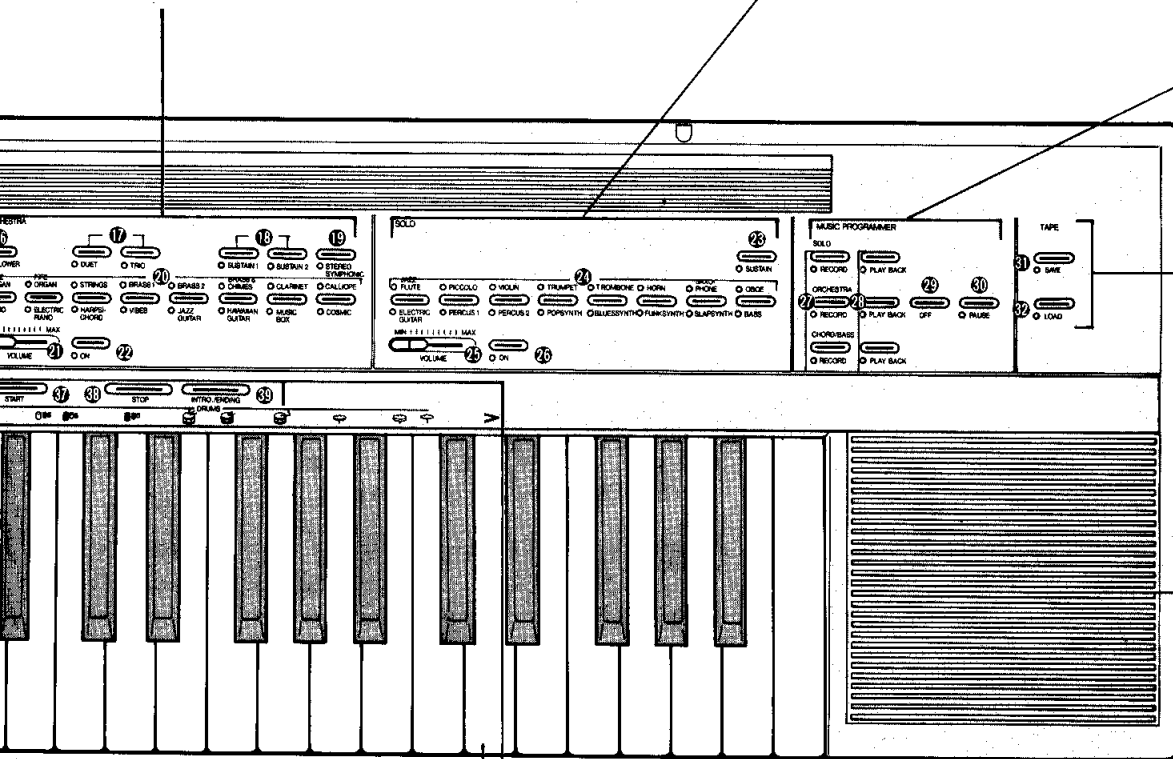
29 セーブ

「ミュージックプログラマー」
「ープにデジタル信号で記

32 ロード

「外部テープに記憶させた
「押します。」

スピーカー



リズム (8~9ページ)

34 キーボードパーカッション

「鍵盤を打楽器として使用する時に押すボタンで
「す。もう1度押すとキャンセルされ、鍵盤はノーマル
「状態に戻ります。」

35 フィルイン1・2・3

「一時的にリズムを変化させるフィルインを使用する
「時に押します。1・2・3の3パターンから選べます。」

36 シンクロスタート

「オートベースコード用鍵盤を押えると同時にリズム
「をスタートさせるボタンです。」

37 スタート

「リズムをスタートさせるボタンです。」

38 ストップ

「リズムを止めるボタンです。」

39 イントロ/エンディング

「イントロカウントでリズムをスタートさせる時や演奏
「のおわりにカッコよくキメたい時に押すボタンです。」

フィルイン・タッチバー (PSR-60のみ)

「鍵盤下に軽く触れるだけでフィルインをかけることがで
「きます。」

ルされます。]

25 ソロ・ボリューム

[ソロ音色の音量を調節するレバーです。]

色になります。]

26 ソロ

[ソロ音色を使用する時に押すボタンです。]

プログラマー (16~19ページ)

ストラ・コード/ベース)

押します。]

29 オフ

[演奏の記憶・再生を止める時に押します。]

オーケストラ・コード/ベース)

する時に押します。]

30 ポーズ

[演奏の記憶・再生を一時的に中断する時に押します。]

に記憶させた演奏データを外部テ
記録する時に押します。]

た演奏データをPSR-60に戻す時に
]

ピッチ (5 ページ)

リズム (8~9 ページ)

マスターボリューム (5 ページ)

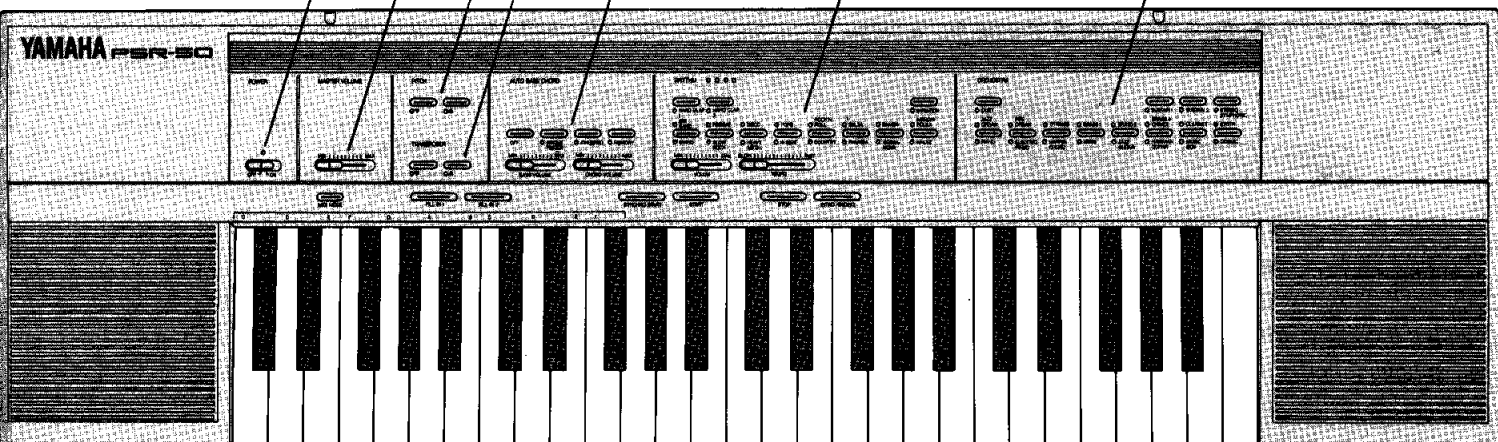
トランスポーザー (5 ページ)

パワースイッチ (5 ページ)

オートベースコード
(10~15 ページ)

オーケストラ (5~6 ページ)

PSR-50

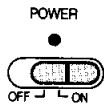


☆基本的なはたらきはPSR-60と同じです。

ポーターンのセット

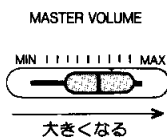
演奏するための準備。

1. パワースイッチをON。



パイロットランプが点灯すれば、電気が通じています。

2. マスターボリュームを調節。



全体の音量を調節します

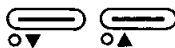
大きくなる

トランスポーターの使いかた

上下にそれぞれ半オクターブまで、キーを変えることができます。伴奏をする時、歌う人の声の高さに合わせたり、音の位置を移動してやさしい長調の弾きかたで演奏が楽しめます。

1. キーを上げる時は▲、下げる時は▼のボタンをON。

TRANSPOSER



ノーマルな状態よりキーが高いと▲の、低いと▼のランプが点灯します

1回ONするごとに半音ずつキーが変わります。ノーマルな状態からそれぞれ6回までONしてキーを変えることができます。

2. もとのキーに戻す時は、▲と▼のボタンを同時にON。

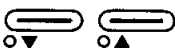
ランプが消えて、ノーマルな状態に戻ります。パワースイッチを入れなおしても、キーに戻すことができます。

ピッチ調整のしかた

他の楽器とアンサンブルをする時などに音程を調整することができます。(可変音±50セント)

1. ピッチを上げる時は▲、下げる時は▼のボタンをON。

PITCH



ノーマルな状態よりピッチが高いと▲の、低いと▼のランプが点灯します。

1回ONするごとにピッチが変わります。また、ボタンを押しつづけていると自動的に変わっていきます。

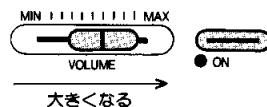
2. もとの状態に戻す時は、▲と▼のボタンを同時にON。

ランプが消えて、もとの状態に戻ります。パワースイッチを入れなおしても、もとの状態に戻すことができます。(A=440Hz)

オーケストラ

同時8音で演奏できる、マイ・オーケストラ。

オーケストラ・スイッチをON。 オーケストラ・ボリュームを調節。

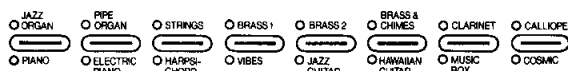


〈PSR-60のみ〉

☆ソロ・スイッチはOFFにします。また、オーケストラ・スイッチとソロ・スイッチが両方もOFFになっていると、オーケストラの音色になります。

☆マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

1. オーケストラ音色セクターから好きな音色をひとつON。



いずれかひとつON

(PSR-50はカリオベガシンセです)

選ばれた音色のランプが点灯します。

もう1度、同じボタンを押すと上下反対がわの音色になります。

☆いずれかの音色セクターをONすると、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。

2. 鍵盤をおさえてみましょう。

選んだ音色が出たことと思います。ほかの音色に変えていろいろなメロディーを弾いてみましょう。

☆同時に8音まで(オートベースコード、デュエット/トリオを使用していない時)の和音演奏ができます。

効果

●サステイン



サステインは音に自然な余韻をつける効果です。サステイン1と2は余韻のかかり方が異なります。曲によって使いわけてください。もう1度押せばキャンセルされます。

☆オーケストラ音色には大きく分けて2種類あります。

持続音	ジャズオルガン、パイプオルガン、ストリングス、ブラス1・2、ブラス&チャイム、クラリネット、カリオベ(60のみ)、シンセ(50のみ)
減すい音	ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、パイプ、ジャズギター、ハワイアンギター、ミュージックボックス、コズミック

ソロ

個性が際立つ、ソロ・プレイヤー。

●ステレオシンフォニック



ボタンを押すと、音色がステレオとなって左右のスピーカーから流れ、広がりのある効果が得られます。もう1度押せばキャンセルされます。

☆パイプオルガン、エレクトリックピアノ、ストリングス、ブラス&チャイムの4音色は音色セレクターで選ぶと自動的にステレオシンフォニックがONになります。(ボタンを押してキャンセルすることもできます。)

☆オーケストラ音色セレクターで音色を選びなおすと、ステレオシンフォニックは自動的にその音色のセットになります。

☆PSR-60のジャズオルガンの音色には、あらかじめステレオシンフォニックの広がりのある効果がかかっていますが、ステレオシンフォニックをONにすると、さらに音にうねりを持たせるトレモロ効果が得られます。

●デュエット/トリオ<トリオはPSR-60のみ>



オートベースコード(10~15ページ参照)を使用している時、メロディーに自動的にハーモニーをつけるボタンです。デュエットなら1音、トリオなら2音、コード音のなかからハーモニーが加わります。もう1度押せばキャンセルされます。

☆オートベースコードで演奏していない時、デュエット/トリオのボタンをONにしてもハーモニーはつきません。

☆ハーモニーとして加わる音の音色は、オーケストラ音色セレクターで選んでいるものです。

☆(PSR-60のみ)オーケストラ、ソロ両方に使えますが、オーケストラ・ボリュームを必ず上げて下さい。また、オーケストラ・スイッチがOFFになっていると、ハーモニーの音量は小さくなり、ソロの演奏が引き立つようになります。

1. ソロ・スイッチをON。



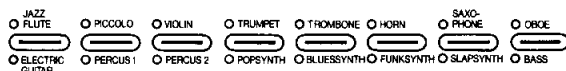
☆オーケストラ・スイッチはOFFにしておきます。

2. ソロ・ボリュームを調節。



☆マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

3. ソロ音色セレクターから好きな音色をひとつON。



いずれかひとつON

選ばれた音色のランプが点灯します。
もう1度同じボタンを押すと上下反対がわの音色になります。

☆いずれかの音色セレクターをONすると、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。

4. 鍵盤をおさえてみましょう。

選んだ音色が出たことと思います。ほかの音色に変えていろいろなメロディーを弾いてみましょう。

☆ソロ音色は単音で鳴り、高音が優先されます。

効果

●サステイン



サステインは音に自然な余韻をつける効果です。
もう1度押すとキャンセルされます。

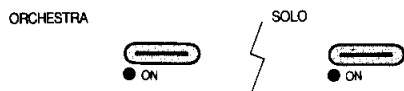
☆かかり方は音色によって異なります。

オーケストラとソロの効果的な使いかた

オーケストラ音色とソロ音色の両方をアンサンブルさせたり、低音部と高音部の鍵盤の音色を使い分けすることができます。

●アンサンブル

1. オーケストラ・スイッチとソロ・スイッチの両方をON。



2. それぞれの音色セクターで、ひとつずつ音色を選んでON。

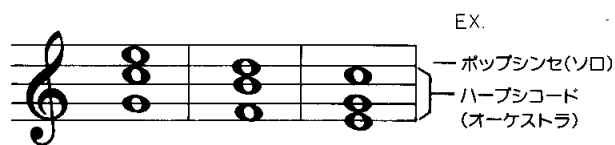
3. ボリュームを調節。



オーケストラ・ボリューム、ソロ・ボリュームの両方を調節します。

☆マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

4. 鍵盤をおさえてみましょう。



2つ以上の鍵盤を同時に弾くと、いちばん高い音だけにソロ音色が加わり、美しいアンサンブル効果が生まれます。

☆聴きながらオーケストラ・ボリュームとソロ・ボリュームを調節して、メロディーが引き立つようにしましょう。

☆鍵盤をひとつだけおさえた時は、オーケストラとソロの両方の音がでます。

☆オーケストラとソロの両方を使用すると、オーケストラは同時に7音まで音がでます。

●メロディーと伴奏をちがう音色で演奏

1. オーケストラのトゥ・ロワーのボタンをON。



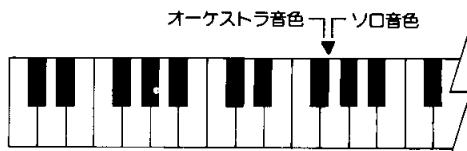
2. オーケストラ、ソロ、それぞれの音色セクターでひとつずつ音色を選んでON。

3. ボリュームを調節。

オーケストラ・ボリューム、ソロ・ボリュームの両方を調節します。

☆マスター・ボリュームが最小の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

4. 両手で弾いてみましょう。



鍵盤の上の▼印より低音域がオーケストラ音色、高音域がソロ音色になります。

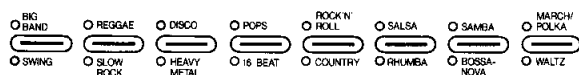
☆オーケストラ・スイッチやソロ・スイッチがOFFになっていても、トゥ・ロワーのボタンを押すと自動的に鍵盤は高音部と低音部に分かれます。

☆デュエット/トリオとトゥ・ロワーを同時に使うことはできません。

☆オートベースコード使用時にトゥ・ロワーを併用することができます。

リズム

1. リズムセクターから リズムをひとつ選んでON。



選ばれたリズムのランプが点灯します。
もう1度押すと上下反対がわのリズムになります。

☆いずれかのリズムセクターを押すと、前に選んだリズムは自動的にキャンセルされます。

2. スタート、シンクロスタートどちらかをON。



〈スタート〉

ボタンをおすと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

〈シンクロスタート〉

このボタンをおすと演奏スタンバイの状態となり、オートベースコード用鍵盤(C1～F#2)をおすと同時に選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。赤いランプでテンポを確認して、メロディーとリズムを同時にスタートさせることができます。もう1度おすとリズムが止まり、再び演奏スタンバイ状態にもどります。ブレイクなどの時に便利です。

3. リズム・ボリュームでリズム音の大きさを調節。



4. テンポレバーでリズムの速さを調節。



5. リズムを止める時はストップをON。



リズムをより効果的に

●バリエーション



リズムやオートベースコード(10～15ページ参照)のパターンがハデになります。もう1度押せばキャンセルされます。

●イントロ/エンディング



よりカッコよくリズムをスタート、ストップさせる時にこのボタンを使います。イントロとして使用の時、カウントをとってからリズムがスタート。テンポを確認して演奏をはじめられます。また、曲のおわりに使用すると、カッコよくエンディングをキメることができます。

☆エンディングとして使用する時、ボタンをONするタイミングが、ワルツの場合で1.5拍目よりあと、その他のリズムで3拍目よりあとだと、次の小節からエンディングのパターンになります。

☆イントロスタートの場合、カウントの間は鍵盤をおさえていてもオートベースコードの音は鳴りません。鍵盤をおさえて待っているとタイミングよくスタートできます。

☆(PSR-60のみ)エンディングとして使用する時、ボタンを2度押しすると、だんだんテンポをゆっくりにするリタルダントとなります。

●ハンドクラップ



リズムに合った手拍子が自動的に加わります。1と2の2種類がありますが、同時に両方をONして使うこともできます。もう1度押せばキャンセルされます。

●フィルイン



メロディーの切れ目など必要な時にフィルインを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズム(オカズ)に変わります。

- フィルイン1リズムのみ変化
- フィルイン2 } リズム、ベース、コード
- フィルイン3 (PSR-60のみ) } ともに変化

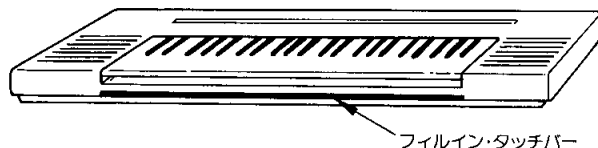
<フィルインで曲をスタート>

フィルインで曲をスタートさせることもできます。まず、フィルインをONしてからリズムをスタートさせてください。

RHYTHM ○ ● ○ ○

リズムがスタートしていない時、フィルインが押されるとそのシルシに2番目のテンポランプが点灯します。

<フィルイン・タッチバー>(PSR-60のみ)



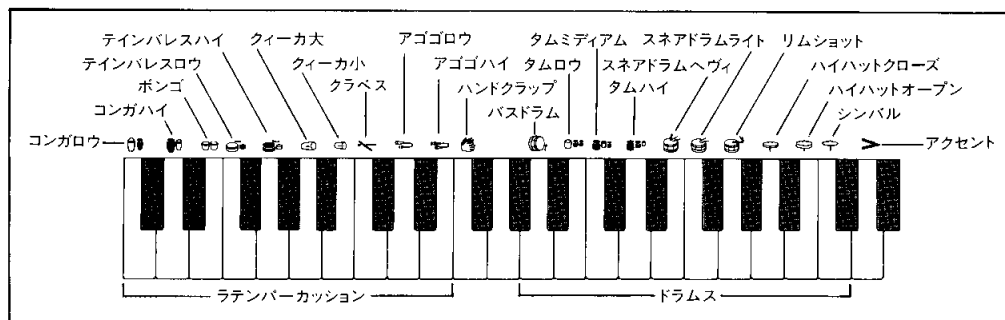
フィルイン・タッチバー

フィルイン・タッチバーは、軽く触れるだけでフィルインさせることができます。フィルインのパターンはあらかじめ、フィルイン1・2・3のいずれかのボタンとタッチバーを同時にONすることで、そのパターンが設定されます。パワースイッチをONした時は、常にフィルイン1が選ばれています。

- ☆フィルインを押し続けると変則的なリズムが長く続きます。
- ☆フィルインのパターンは選んだリズムによって変化します。
- ☆フィルインを押ししたあと、その小節内にもう1度押すと通常のリズムにもどります。

PSR-60のみ

キーボードパーカッション 鍵盤を打楽器として使用することができます。



○ KEYBOARD PERCUSSION

キーボードパーカッションのボタンを押すと鍵盤から上の図のドラムス&パーカッションの音が出てきます。もう1度押せばキャンセルされ、ノーマル演奏の状態にもどります。

☆この状態では、打楽器の鍵盤以外から音はでません。

☆打楽器の鍵盤の範囲の黒鍵は、右端アクセント(>)鍵盤と同様、同時に押すと音が大きくなるアクセントとして使用できます。

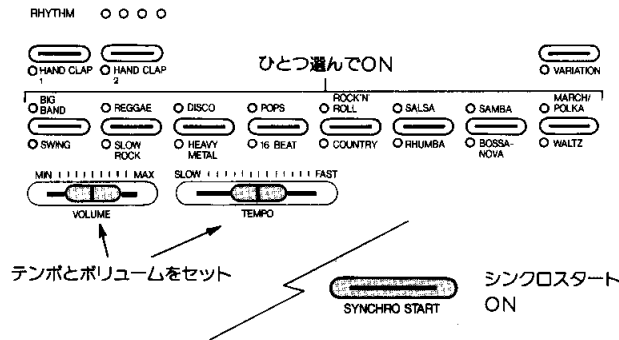
☆キーボードパーカッション使用時は、オートベースコード、通常のリズムなどは使用できません。

☆キーボードパーカッションの音量は、リズム・ボリュームで調節します。

オートベースコード1 シングルフィンガーコード

鍵盤をひとつおさえるだけで、和音とベース音による自動伴奏ができます。

1. リズムをセット。(8~9ページ参照)

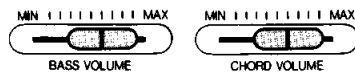


2. シングルフィンガーコードのボタンをON。



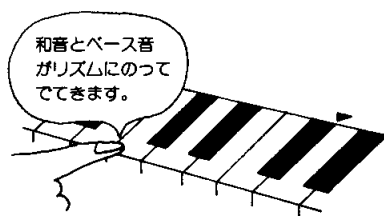
☆メモリーが自動的にセットされます。

3. コードとベースのボリュームを調節。



☆マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

4. オートベースコード用鍵盤をひとつおさえます。



オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムにのってでできます。

☆鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。

☆コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

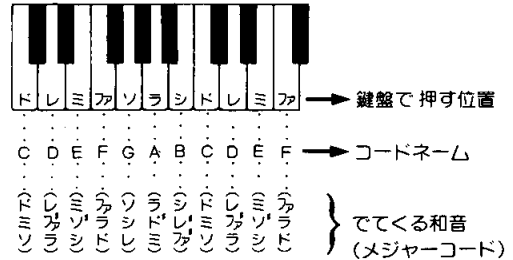
☆オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

☆メモリーをOFFにすると、鍵盤から指を離せばオートベースコードの音も鳴りやみます。この時、シンクロスタートで演奏をはじめた場合は鍵盤から指を離すとリズムの音も止まって、演奏スタンバイ状態になり、ブレークとして使用することもできます。

シングルフィンガーコードのだし方

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてくる和音の関係を示したものです。



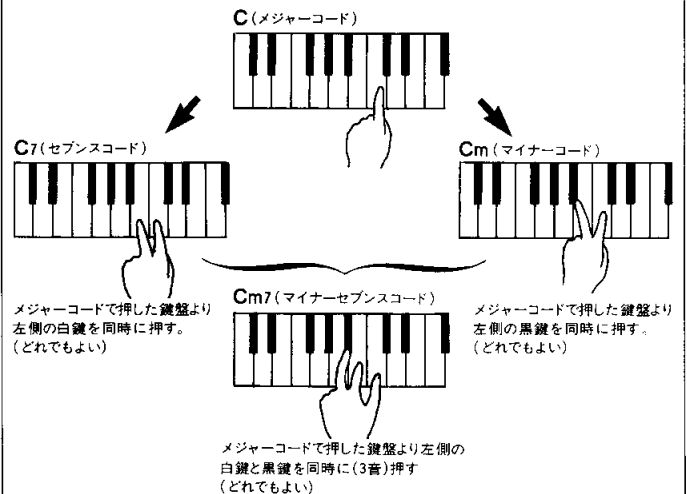
♯、♭のついているコードのだし方



♯がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、♭がついていたら左上の黒鍵をおせば、♯・♭のついたコードがでます。

セブンスコード、マイナーコードのだし方

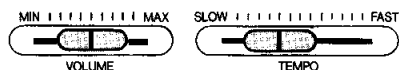
アルファベット1文字のコード(C, Dなど)をメジャーコードといいます。伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば[G₇]のようなセブンスコード、[Am]のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことで出すことができます。



ラブ・ミー・テンダーを弾いてみましょう

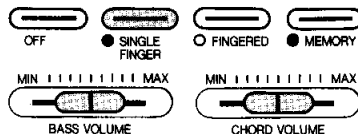
1. オーケストラ音色セクターのエレクトリックピアノをON。

2. リズムはポップスを選びます。



リズムのテンポと
ボリュームを調節。

3. オートベースコードをセット。



4. シンクロスタートまたはイントロ/エンディングをON。

5. なれたら途中からデュエットを加えると効果的。

ラブ・ミー・テンダー

Love me Tender

作詞・作曲/E.Presley & V.Matson

POPS C C D7 G7 C

ELECTRIC PIANO

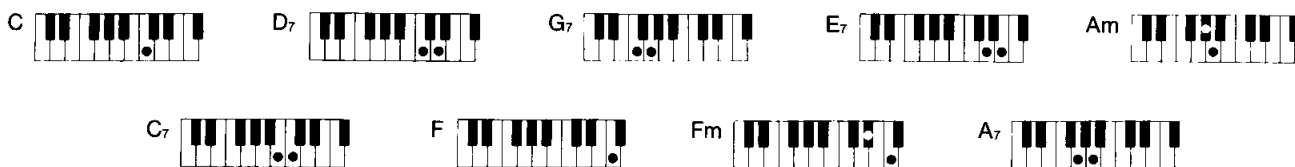
C D7 G7 C

DUET ON
↓ C E7 Am C7 F Fm C

C A7 D7 G7 C ↓ 2拍目でイントロ/エンディング ON




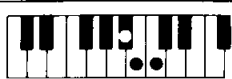

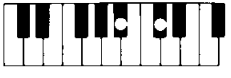
















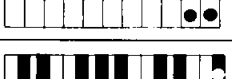


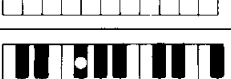
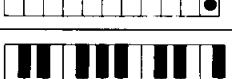








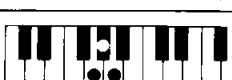



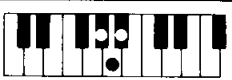



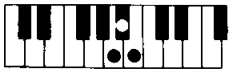

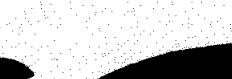


©1956 by ELVIS PRESLEY Music, Inc.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.
日本音楽著作権協会(出)許諾 第8570444-501号

☆コードのおさえ方



コード早見表

シングルフィンガーコード

メジャーコード		マイナーコード		セブンスコード		マイナーセブンスコード	
C		Cm		C7		Cm7	
D [♯] (C [♯])		D [♯] m(C [♯] m)		D [♯] 7(C [♯] 7)		D [♯] m7(C [♯] m7)	
D		Dm		D7		Dm7	
E [♯] (D [♯])		E [♯] m(D [♯] m)		E [♯] 7(D [♯] 7)		E [♯] m7(D [♯] m7)	
E		Em		E7		Em7	
F		Fm		F7		Fm7	
F [♯] (G [♯])		F [♯] m(G [♯] m)		F [♯] 7(G [♯] 7)		F [♯] m7(G [♯] m7)	
G		Gm		G7		Gm7	
A [♯] (G [♯])		A [♯] m(G [♯] m)		A [♯] 7(G [♯] 7)		A [♯] m7(G [♯] m7)	
A		Am		A7		Am7	
B [♯] (A [♯])		B [♯] m(A [♯] m)		B [♯] 7(A [♯] 7)		B [♯] m7(A [♯] m7)	
B		Bm		B7		Bm7	



オートベースコード2 フィンガードコード

フィンガードコードは、和音をおさえて自動伴奏をする機能です。シングルフィンガードより表現の幅が広がります。

1. リズムをセット。(8~9ページ参照)

テンポとボリュームをセット

シンクロスタート ON

☆メモリーをOFFにすると、鍵盤から指を離せばオートベースコードの音も鳴りやみます。この時、シンクロスタートで演奏をはじめた場合は鍵盤から指を離すとリズムの音も止まって演奏スタンバイ状態になり、ブレークとして使用することもできます。

☆転回形を検出するコードは次の7種類です。

例：C、Cm、C7、Cm7、Cmaj7、Cm7⁻⁵、C7sus4

これ以外のコードの場合は、押鍵している和音の最低音をベースとして演奏します。

2. フィンガードコードのボタンをON。

☆メモリーが自動的にセットされます。

3. コードとベースのボリュームを調節。

☆マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

4. オートベースコード用鍵盤で和音をおさえます。

例えば Cなら

オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムにのってでてきます。

☆鍵盤から指を離したあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。

☆コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

☆オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

コード早見表

フィンガードコード

メジャーコード

C	
D [♯] (C [♯])	
D	
E [♯] (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G [♯])	
G	
A [♯] (G [♯])	
A	
B [♯] (A [♯])	
B	

マイナーコード

Cm	
D [♯] m (C [♯] m)	
Dm	
E [♯] m (D [♯] m)	
Em	
Fm	
F [♯] m (G [♯] m)	
Gm	
A [♯] m (G [♯] m)	
Am	
B [♯] m (A [♯] m)	
Bm	

セブンスコード

C7	
D [♯] 7 (C [♯] 7)	
D7	
E [♯] 7 (D [♯] 7)	
E7	
F7	
F [♯] 7 (G [♯] 7)	
G7	
A [♯] 7 (G [♯] 7)	
* A7	
* B [♯] 7 (A [♯] 7)	
* B7	

マイナーセブンスコード

Cm7	
D ^b m7 (C ^b m7)	
Dm7	
E ^b m7 (D ^b m7)	
Em7	
Fm7	
F ^b m7 (G ^b m7)	
Gm7	
A ^b m7 (G ^b m7)	
* Am7	
* B ^b m7 (A ^b m7)	
* Bm7	

メジャーセブンスコード

Cmaj7	
D ^b maj7 (C ^b maj7)	
Dmaj7	
E ^b maj7 (D ^b maj7)	
E ^b maj7 (D ^b maj7)	
Emaj7	
Fmaj7	
F ^b maj7 (G ^b maj7)	
Gmaj7	
* A ^b maj7 (G ^b maj7)	
* Amaj7	
* B ^b maj7 (A ^b maj7)	
* Bmaj7	

ディミニッシュコード

Cdim	
D ^b dim (C ^b dim)	
Ddim	
E ^b dim (D ^b dim)	
Edim	
Fdim	
F ^b dim (G ^b dim)	
Gdim	
A ^b dim (G ^b dim)	
Adim	
* B ^b dim (A ^b dim)	
* Bdim	

オーギュメントコード

Caug	
D ^b aug (C ^b aug)	
Daug	
E ^b aug (D ^b aug)	
Eaug	
Faug	
F ^b aug (G ^b aug)	
Gaug	
A ^b aug (G ^b aug)	
Aaug	
B ^b aug (A ^b aug)	
* Baug	

マイナーセブンス
フラットドフィフスコード

Cm7 ⁻⁵	
D ^b m7 ⁻⁵ (C ^b m7 ⁻⁵)	
Dm7 ⁻⁵	
E ^b m7 ⁻⁵ (D ^b m7 ⁻⁵)	
Em7 ⁻⁵	
Fm7 ⁻⁵	
F ^b m7 ⁻⁵ (G ^b m7 ⁻⁵)	
Gm7 ⁻⁵	
A ^b m7 ⁻⁵ (G ^b m7 ⁻⁵)	
* Am7 ⁻⁵	
* B ^b m7 ⁻⁵ (A ^b m7 ⁻⁵)	
* Bm7 ⁻⁵	

セブンスサス・フォー
コード

C7sus4	
C ^b 7sus4 (D ^b 7sus4)	
D7sus4	
E ^b 7sus4 (D ^b 7sus4)	
E7sus4	
F7sus4	
F ^b 7sus4 (G ^b 7sus4)	
Gsus4	
A ^b 7sus4 (G ^b 7sus4)	
* A7sus4	
* B ^b 7sus4 (A ^b 7sus4)	
* B7sus4	

※は転回型、他は基本型です。

ミュージックプログラマー

ソロ、オーケストラ、オートベースコードの3パートをそれぞれ独立したチャンネルにメモリーさせ、それらを同時に再生することができます。
ミュージックプログラマーにメモリーさせた演奏は最低5日間有効です。保存したい時はカセットインターフェイス機能をご使用ください(20ページ参照)。

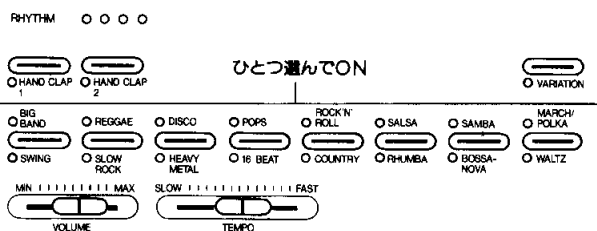
コード <メモリー容量: 1200バイト(1小節に1コード入れた場合約119~297小節)>

■メモリー(記憶)

オートベースコードのメモリーと同時に次のものの状態もメモリーします。

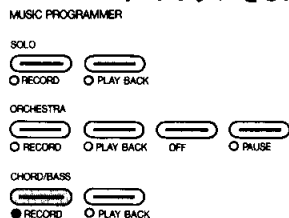
- ☆リズム——●リズムセクター●バリエーション●ハンドクラップ1・2●フィルイン1・2・3●イントロ/エンディング●リズムボリューム
- ☆オートベースコード——●シングルフィンガーコード●フィンガードコード●メモリー●コードボリューム●ベースボリューム

1. リズムをセット。



☆テンポはメモリーされません。再生の時に調節できますので演奏しやすいテンポにしましょう。

2. コード/ベース・レコードのボタンをON。



シンクロナスタート、シングルフィンガーコード、メモリーが自動的に作動します。

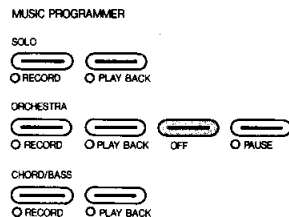
- ☆フィンガードコードでメモリーさせたい時は、フィンガードコードのボタンをON。
- ☆コードボリューム、ベースボリュームを調節。

3. コード演奏をして、メモリーさせます。

鍵盤をおさえるとリズムがスタートします。

☆イントロ/エンディングでメモリーをスタートすることもできます。

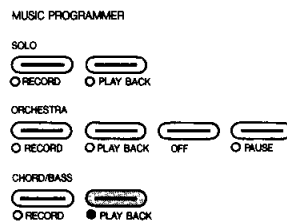
4. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。



☆リズムのストップ、イントロ/エンディングでも停止させることができます。

■再生

1. コード/ベース・プレイバックのボタンをON。



シンクロナスタートが自動的に作動し、スタンバイ状態になります。

2. リズムのスタート・ボタンをON。

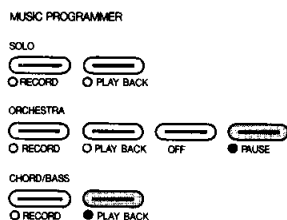
再生がスタート。メモリーした量が終わると自動的にスタンバイ状態にもどります。

☆鍵盤をONして再生をスタートさせることもできます。

☆イントロ/エンディングで再生をスタートさせることもできますが、メモリー時にイントロ/エンディングを使用していないと再生の最初の2小節がイントロカウントに変わり、オートベースコードの音はでません。

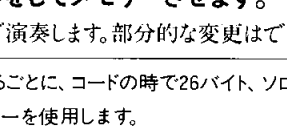
■変更(メモリーに失敗した時などの途中からの変更)

1. メモリーさせた演奏を再生。



☆この時、リズムセクターやボリュームなどレジストレーションも変更することができます。

2. 変更したい小節の前でポーズをON。



☆ポーズを1回ONするごとに、コードの時で26バイト、ソロで8バイト、オーケストラで12バイトずつメモリーを使用します。

3. コード/ベース・レコードのボタンをON。

そのまま最後まで演奏します。部分的な変更はできません。

☆ポーズを1回ONするごとに、コードの時で26バイト、ソロで8バイト、オーケストラで12バイトずつメモリーを使用します。

ソロ <メモリー容量: 1700バイト(1小節に4分音符4つで約99~187小節)>

■メモリー

ソロ・パートの演奏と同時に次のものをメモリーします。

●ソロ ●ソロ音色セクター ●ソロ・ボリューム ●サステイン(フットスイッチを使用しない場合)

1. ソロ音色セクターで、音色をひとつ選んでON。

☆オーケストラ・スイッチはOFFにしておきます。

2. ソロ・レコードのボタンをON。

MUSIC PROGRAMMER

SOLO
● RECORD ○ PLAY BACK

ORCHESTRA
○ RECORD ○ PLAY BACK OFF ○ PAUSE

CHORD/BASS
○ RECORD ○ PLAY BACK

シンクロナスタートが自動的に作動。あらかじめメモリーしたコード演奏を再生させながら弾いた方がうまくいきます。

3. リズムのスタートボタンでリズムをスタート。 ソロ・パートを演奏してメモリーさせます。

☆リズムのスタートボタンを押さなくても、鍵盤を弾いてもリズムはスタートします。

4. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。

MUSIC PROGRAMMER

SOLO
○ RECORD ○ PLAY BACK

ORCHESTRA
○ RECORD ○ PLAY BACK OFF ○ PAUSE

CHORD/BASS
○ RECORD ○ PLAY BACK

☆リズムのストップ、イントロ/エンディングでも停止させることができます。

※再生したい時は、ソロ・プレイバックのボタンを押し、リズムのスタートボタンをON。また、変更したい時は再生途中でポーズをONし、ソロ・レコードのボタンを押して弾きなおします。

☆ソロ音色にベースがあるので、ソロパートのチャンネルをベースチャンネルとして使用することもできます。この場合コードメモリー時にオートベースコードのベース・ボリュームは最小(MIN)にします。

☆ボリュームを変化させながらメモリーした場合、再生時には4分音符単位で変化します。

オーケストラ <メモリー容量: 1700バイト(1小節に4分音符4つで約99~187小節)>

■メモリー

オーケストラ・パートの演奏と同時に次のものをメモリーします。

●オーケストラ ●オーケストラ音色セクター ●デュエット/トリオ ●サステイン1・2(フットスイッチを使用しない場合) ●ステレオシンフォニック ●オーケストラ・ボリューム

1. オーケストラ音色セクターで、音色をひとつ選んでON。

☆ソロ・スイッチはOFFにしておきます。

2. オーケストラ・レコードのボタンをON

MUSIC PROGRAMMER

SOLO
○ RECORD ○ PLAY BACK

ORCHESTRA
● RECORD ○ PLAY BACK OFF ○ PAUSE

CHORD/BASS
○ RECORD ○ PLAY BACK

シンクロナスタートが自動的に作動。あらかじめメモリーしたコードやソロの演奏を再生させながら弾いた方がうまくいきます。

3. リズムのスタートボタンでリズムをスタート。 オーケストラ・パートを演奏してメモリーさせます。

☆リズムのスタートボタンを押さなくても鍵盤を弾いてもリズムはスタートします。

☆ミュージックプログラマーには単音しかメモリーされません。高音が優先されます。

4. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。

MUSIC PROGRAMMER

SOLO
○ RECORD ○ PLAY BACK

ORCHESTRA
○ RECORD ○ PLAY BACK OFF ○ PAUSE

CHORD/BASS
○ RECORD ○ PLAY BACK

☆リズムのストップ、イントロ/エンディングでも停止させることができます。

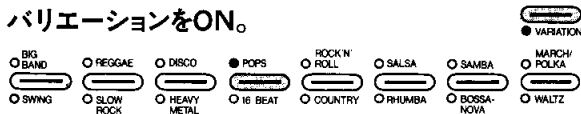
※再生したい時は、オーケストラ・プレイバックのボタンを押し、リズムのスタートボタンをON。また、変更したい時は、再生途中でポーズをONし、オーケストラ・レコードのボタンを押して弾きなおします。

☆ボリュームを変化させながらメモリーした場合、再生時には4分音符単位で変化します。

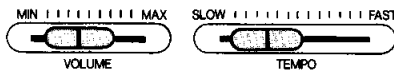
「いとしのエリー」を弾いてみましょう。

■コードをメモリー

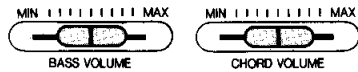
1. ポップスのリズムを選び、
バリエーションをON。



2. リズムのテンポとボリュームをセット。



3. オートベースコードのベースとコードの
ボリュームをセット。



4. コード/ベースレコードのボタンをON。



☆シングルフィンガーコードに自動的にセットされます。フィンガードコードで演奏したい時は、フィンガードコードのボタンをON。

5. 楽譜を見ながら

コード演奏をしてメモリーさせます。

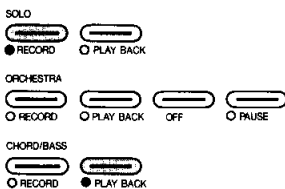
6. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。

■コードを再生させながらメロディーをメモリー

7. ソロ音色セクターで、
エレクトリックギターを選びます。



9. コード/ベース・プレイバックと
ソロ・レコードのボタンをON。



10. リズムのスタートボタンでコードの再生がスタート、
メロディーを弾いてメモリーさせます。

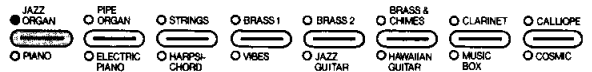


4小節目の4拍目からメロディー演奏スタート。

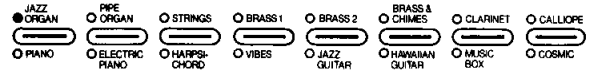
11. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。

■コードとメロディーの再生にあわせて オブリガートをメモリー

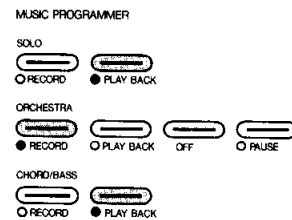
12. オーケストラ音色セクターで、
ジャズオルガンを選びます。



13. オーケストラ・ボリュームを調節。



14. コード/ベース、ソロのプレイバックと
オーケストラ・レコードのボタンをON。



15. 演奏をスタート。

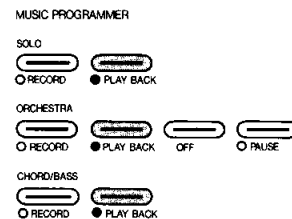
コード/ベースとソロが再生されます。

あわせてオブリガートを演奏してメモリーさせます。

16. メモリーが終わったら、オフのボタンをON。

■コード、メロディー、オブリガートを 同時に再生

17. コード/ベース、ソロ、オーケストラの
プレイバックをON。



18. リズムのスタート・ボタンをON。



メモリーさせた、3パートのアンサンブルが再生されます。

☆メモリーした演奏量が終われば、自動的に演奏はスタンバイ状態に戻ります。停止させたい時は、オフのボタンをON。

いとしのエリー

作曲/桑田佳祐

オートベース
コード

ソロ

オーケストラ

日本音楽著作権協会(出)許諾 第8570444-501号
©1979 by P.M.P & Burning Music Pub.

☆コードのおさえ方



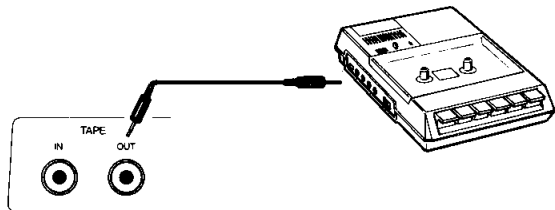
テープ (カセットインターフェイス)

ミュージックプログラマーにメモリーした演奏データを外部テープにデジタル録音することができます。

■セーブデータの録音

(PSR-60→カセットテープ)

1. PSR-60のTAPE OUT端子とデータレコーダのMIC IN端子をコードで接続。

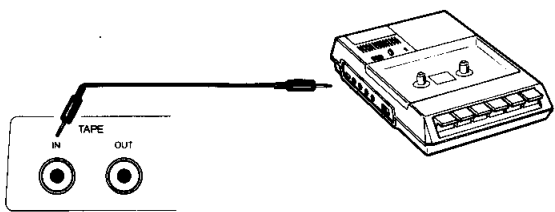


2. カセットテープをデータレコーダにセット。
何も記録されていない部分をさがします。
3. データレコーダの録音スイッチをON。
4. セーブのボタンをON。
5. セーブが完了すると、セーブのランプが自動的に消灯。
データレコーダのスイッチをOFFにします。

■ロードデータの読み込み

(カセットテープ→PSR-60)

1. PSR-60のTAPE IN端子とデータレコーダのHEADPHONES端子(EARPHONE端子)をコードで接続。



2. カセットテープをデータレコーダにセット。
記録させてあるところまでテープを巻き戻します。
3. ロードのボタンをON。
4. データレコーダの再生スイッチをON。
5. ロードが完了すると、ロードのランプが自動的に消えます。

☆ロードをすると、そのとき本体にメモリーされていたデータは消去されます。

NOTE

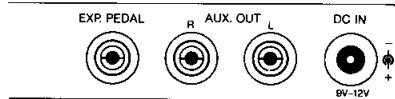
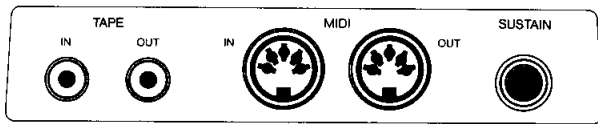
☆セーブ、ロードがONされている時、鍵盤から音はできません。
 ☆セーブ、ロードに要する時間は、データの量によって異なりますが、最大45秒です。
 ☆接続が不完全であったり、データレコーダとのマッチングが悪い場合ロードのランプが点灯したまま、または点滅状態になります。ボタンをもう1度おしてランプを消し、接続などを確認してからやりなおしてください。

☆セーブ、ロードがうまくいかない場合、次のチェック項目にそって確認してください。

- ①再生時にデータレコーダのロードボリュームツマミを中央より高め(10段階目盛では6~8)に合わせてください。レベルが大きすぎても読み込みません。
- ②データレコーダの録音・再生操作は間違っていないか。
 (録音したあと、データレコーダからコードを抜いてテープを再生してください。ピーという音が出れば録音されています。ピーという音がでない場合はコードなどを確認してください。)
- ③データレコーダのヘッドが汚れていませんか。録音、再生ヘッドのクリーニングを試みてください。
- ④テープを確認してください。

- ・テープはコンピュータ用のものか、あるいはオーディオ用の場合はノーマルテープ、ローノイズタイプの30分か45分のものでご使用ください。
 - ・テープ面に折り目、継目、シワがないことを確認してください。
 - ・新しいテープをご使用ください。また、テープの巻き始めはシワなどによってエラーとなることがありますので、少し空送りしてからご使用ください。
- ☆データレコーダによっては、セーブ、ロードができない場合もあります。その場合は、次のいずれかの推奨データレコーダをご使用ください。
- ・NEC(PC-6082)
 - ・サンヨー(MR-II DR)・・・モード切替(ノーマル/データ)スイッチをノーマルに、フェイズをOFFにしてご使用ください。
 - ・アイワ(DR-2)・・・フェイズをOFFにしてご使用ください。

付属端子とオプション



〈図はPSR-60です〉

ポータートの本体背面には、図のような外部端子がついています。これらを活用すれば、ポータートの楽しさはいっそう広がります。(ヘッドホンは左前にあります。)

1. HEADPHONES端子

ヘッドホンを使えば、夜間などでも周囲を気にすることなく演奏を楽しむことができます。この端子にヘッドホンを接続してください。ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでも使えます。

2. TAPE端子〈PSR-60のみ〉

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データをカセットテープに保存したり、またテープから本体に戻したりする時に使います。(くわしくは20ページを参照してください。)

3. MIDI端子

他のデジタル楽器やコンピューターと接続して、情報交換する時に使います。(くわしくは22～25ページを参照してください。)

4. SUSTAIN端子

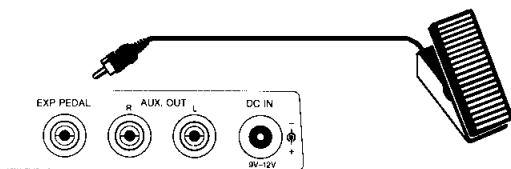
足でサステインのON/OFFをコントロールするフットスイッチ〔FC-5〕を接続する端子です。



5. EXP. PEDAL端子

エクスプレッションペダル〔EP-1〕は、足で自由に音量を調節でき、演奏に表情をつけることができるペダルです。

このEXP. PEDAL端子に接続してお使いください。



6. AUX. OUT端子

ご家庭のオーディオなど出力の大きなスピーカーに接続すると、イキイキとした迫力あるサウンドをいっそうお楽しみいただけます。この端子を使って、オーディオなどのLINE IN端子に接続してください。

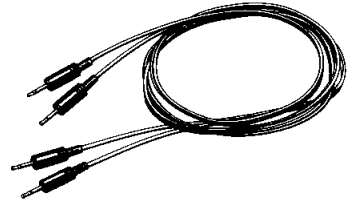
7. DC9-12V IN端子

家庭用コンセントから電源をとるときに使う端子です。専用アダプター〔PA-4〕を接続してください。

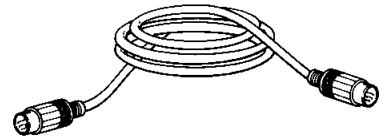
オプション(別売付属品)

●ステレオヘッドホン〔YHD-3〕
¥5,500

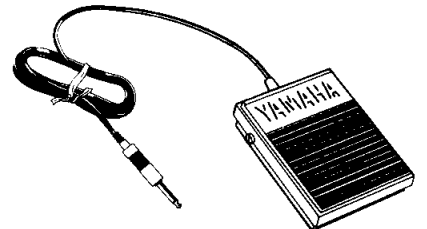
●インターフェイスケーブル
〔PSC-4〕 ¥1,000



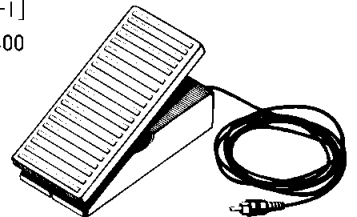
●MIDIケーブル
〔MIDI-15〕 ¥3,800
〔MIDI-03〕 ¥1,400



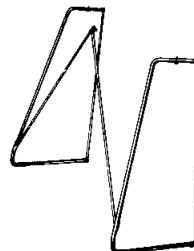
●フットスイッチ〔FC-5〕
¥1,500



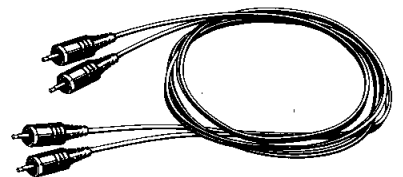
●エクスプレッションペダル〔EP-1〕
¥2,400



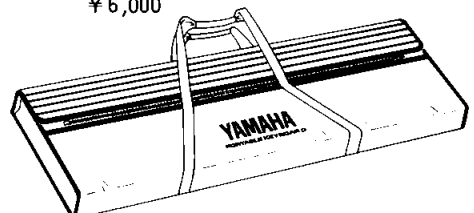
●スタンド〔L-2〕
¥6,000



●接続コード〔PSC-3〕(ステレオ)
¥1,000



●専用ソフトケース〔SCC-11〕
¥6,000



MIDI

ポータートーンPSR-60・PSR-50は、MIDI規格のオールデジタルキーボード。MIDI端子を使って多彩なプレイを楽しめます。MIDIに関する詳細は別冊「MIDIハンドブック」を参照してください。

■What's MIDI?

MIDI<ミディ>は、Musical Instrument Digital Interface<ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス>の略で、日本語にすると「楽器間デジタル通信」。つまり、電子楽器どうし(またはコンピュータ)が、うまくコミュニ

ケーションをとりあい、その演奏情報を互いに交換するためのもの。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どのメーカーの製品でもMIDI端子がついていれば、情報交換をすることができるのです。

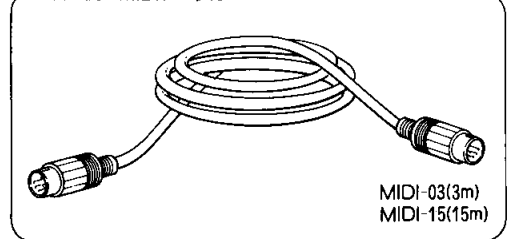
■ともかく、つないでみよう

●接続のしかた

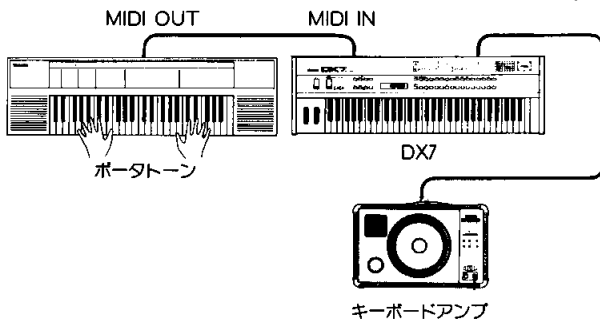
MIDI端子は、その名のとおりMIDI OUTが演奏情報の出力、MIDI INが入力に使う端子です。そこで、④という楽器のMIDI OUTと⑤という楽器のMIDI INをMIDIケーブルで接続すれば、④で演奏した内容が⑤に送られるわけです。この④の楽器を「マスター」(親機)、⑤の楽器を「スレーブ」(子機)と呼びます。



接続に使うMIDIケーブル

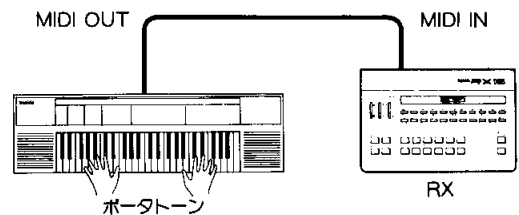


●デジタルシンセサイザー-DX7との接続



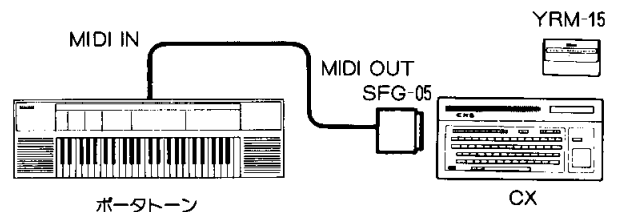
上の図のように、ポータートーンのMIDI OUTとDX7のMIDI INを接続すれば、ポータートーンで演奏するだけでDX7からも音をだすことができます。つまり、どの鍵盤を押えたか(キーノート)などの情報が瞬時にDX7に伝えられ、ユニゾンで演奏させるのです。この時、ポータートーンのオーケストラ音色セレクターで音色を変更すると、DX7の音色も連動して変わりますので、音色をうまく組み合わせ、厚みのあるサウンドを創りだすことができます。また、DX7のMIDI OUTとポータートーンのMIDI INを接続すれば、DX7を演奏してポータートーンを鳴らすことができます。

●リズムマシンRXとプレイ



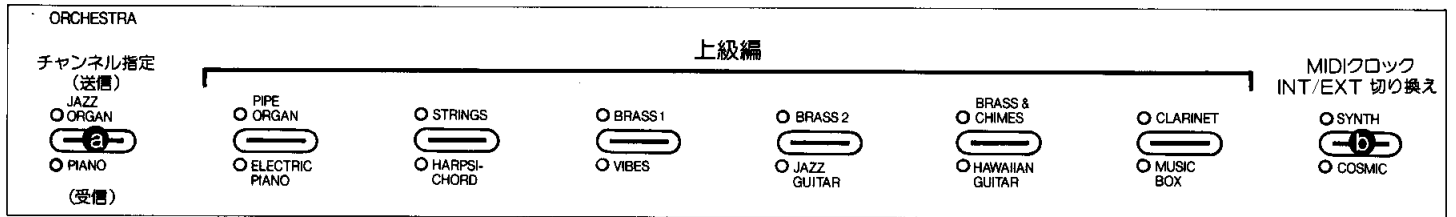
ポータートーンのリズムもPCM音源だけあってなかなかの迫力ですが、もっとラテンっぽいリズムの華やかな曲を雰囲気だして演奏したいとか、曲の途中でドラムソロを入れたい、なんていうときは、リズムマシンRXと図のように接続。また、たとえばRX15なら10曲分もメモリーすることができるので、あらかじめドラムパートをメモリーさせておき、ポータートーンのリズムとあわせてツインドラムで楽しむこともできます。

●パソコンでポータートーン自動演奏



自分でプレイするかわりに、パソコンでポータートーンに演奏させるという楽しみ方もできます。たとえばヤマハMSXパソコンCXシリーズには、ミュージックコンポーザー(YRM-15)という音楽入力用ソフトがありますので、これを使って、演奏させたい曲を打ち込むだけ。ポータートーンが自動演奏してくれます。音色は、曲のイメージにあわせて自由に選べます。

MIDIを使いこなそう1 (基本編)



ポータートーンは、MIDIの基本機能である、次の情報を送信・受信することができます。

1. キーノートON/OFF (鍵盤押鍵情報)
2. プログラムチェンジ(オーケストラ音色の選択)
3. コントロールチェンジ(オーケストラのサステイン、ボリューム)
4. MIDIクロック、スタート/ストップ

☆電源ON時の状態は次のとおりです。

- クロックはINT (インターナル) クロック
- オムニ・オン/ポリ
パワースイッチを入れ直すと、常にこの状態になります。

MIDIモード設定

MIDIモードのボタンを押している時は、オーケストラ音色セレクターのボタンが上の図のような機能に変わります。



☆リズムがスタートしているとMIDIモードの設定はできません。

② チャンネル指定モード

電源オン(オムニ・オン)の状態だと送られてきた情報すべてを受信します。そこで必要な情報だけを選択して送・受信できるよう、MIDIでは情報にチャンネルナンバーを指定することができます。つまり、マスターの送信チャンネルとスレーブの受信チャンネルのナンバーを同じにすれば、マスターの演奏情報をスレーブがキャッチし、ナンバーが合わないは無視します。これは、テレビのチャンネルと同じようなもの。各テレビ局が特定のチャンネルで送信し、受け手はそれにテレビのチャンネルを合わせなければなりません。MIDIでは送信・受信それぞれ1~16まで選べます。

操作

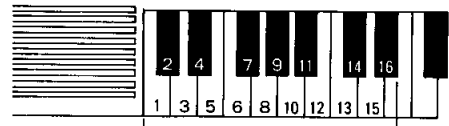
<送信チャンネル指定>

1. MIDIモードのボタンを押しながら②「チャンネル指定モード」スイッチをON。ジャズオルガンのランプを点灯させ、送信のモードにします。
2. MIDIモードのボタンを押したまま、鍵盤でチャンネルを指定します(右図参照)。

<受信チャンネル指定>

1. MIDIモードのボタンを押しながら②「チャンネル指定モード」スイッチをON。ピアノのランプを点灯させ、受信のモードにします。
 2. MIDIモードのボタンを押したまま、鍵盤でチャンネルを指定します(右図参照)。
- さらに、MIDIモードのボタンを押したまま、②「チャンネル指定モード」スイッチをONすると、ランプが消えて再びオムニ・オンの状態に戻ります。オムニ・オンに戻しても、前に指定した送・受信チャンネルは電源を切らない限りおぼえています。

☆チャンネルの指定に使う鍵盤は左端16鍵です。



指定したいチャンネルナンバーの鍵盤を押します。

☆指定したチャンネルナンバーは、テンポランプで図のように2進表示されます。

チャンネルナンバー	テンポランプの点灯	チャンネルナンバー	テンポランプの点灯
1	● ○ ○ ○	9	● ○ ○ ●
2	○ ● ○ ○	10	○ ○ ● ●
3	● ● ○ ○	11	● ● ○ ●
4	○ ○ ● ○	12	○ ○ ● ●
5	● ○ ● ○	13	● ○ ● ●
6	○ ○ ● ○	14	○ ○ ● ●
7	● ● ● ○	15	● ● ● ●
8	○ ○ ○ ●	16	○ ○ ○ ○

⑥ MIDIクロックINT./EXT.切り換え

たとえばRXとポータートーンのようにリズム機能を持った2台の楽器を接続する時、そのテンポを同期させるためには、マスターのクロックをINT(インターナル)、スレーブの方をEXT(エクスターナル)にする必要があります。

操作

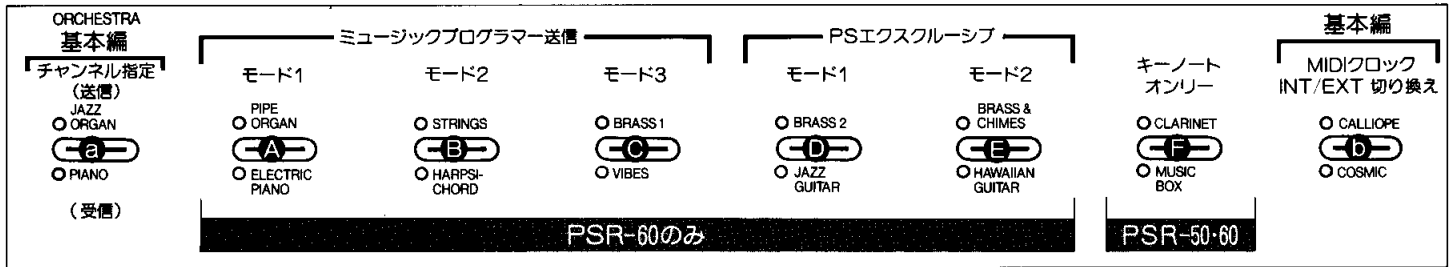
<INT.→EXT.>

MIDIモードのボタンを押しながら⑥「MIDIクロックINT./EXT.切り換えモード」スイッチをON。シンセ(PSR-60はカリオベ)のランプを点灯。

<EXT.→INT.>

EXT.にする時と同じ操作でランプを消灯させます。

MIDIを使いこなそう？（上級編）



(図はPSR-60)

PSR-60のMIDIでは、基本機能に加えて次の情報を送信・受信することができます。

1. ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データの送・受信
2. ソロ、オーケストラ、コード、ベース、リズムの各パート別のキーノート、プログラムチェンジ、コントロールチェンジの送信、ならびに同時別チャンネル受信

☆PSR-60・50のMIDIでは、次のものは送信・受信しません。

1. ベロシティ、ベンダーなど、PSR-60・50にない機能の情報
2. PSR-60・50の音域(C1～C5)以外のキーノート

●また、PSR-50のMIDIでは、次のものも送信・受信しません。

1. リズムの選択、ハンドクラップ、フィルインのON/OFF
2. オートベースコードのスイッチのON/OFF
3. トランスポージャー、ピッチの上下

●MIDIモード設定

MIDIモードのボタンを押すと、オーケストラ音色セレクターとリズムセレクターの各ボタンが上の図のような機能に変わります。



☆リズムがスタートしているとMIDIモードの設定はできません。

Ⓐミュージックプログラマー送信モード1<PSR-60のみ>

Ⓑミュージックプログラマー送信モード2<PSR-60のみ>

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データを他のキーボードに送信し、その音源を使用して演奏させたい時に使うモードです。

Ⓐモード1かⒷモード2の選択はスレーブにする楽器によって選択します。スレーブにする楽器がシングルフィンガーコード形式の自動伴奏機能を持っている場合はモード1、フィンガードコード形式の自動伴奏の時はモード2にします。

Ⓒミュージックプログラマー送信モード3<PSR-60のみ>

このモードにすると、ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データをソロ、オーケストラ、ベース、コードのパート別に違うチャンネルで送信することができます。ⒶⒷのモードとは異なり、ベースやコードもキーノートとして送信するので、自動伴奏機能を持たないキーボードやシンセサイザーの音色でPSR-60のオートベースコードパターンを演奏させることができます。

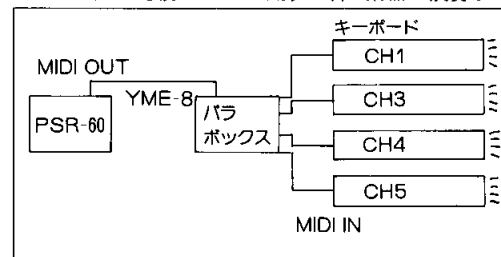
操作

1. MIDIモードのボタンを押しながらⒸ「ミュージックプログラマー送信モード3」のボタンをON。プラス1のランプが点灯。
2. スレーブにしたキーボードの受信チャンネルを、鳴らしたいパートのチャンネルに設定します。
3. ミュージックプログラマーのプレイバックON。演奏をスタートさせます。

☆各パートの送信チャンネルは次のとおり(変更はできません)。

- CH1—オーケストラ
- CH3—ベース
- CH4—ソロ
- CH5—コード

☆バラボックスを使えば、パート別に4台の楽器で演奏させることができます。



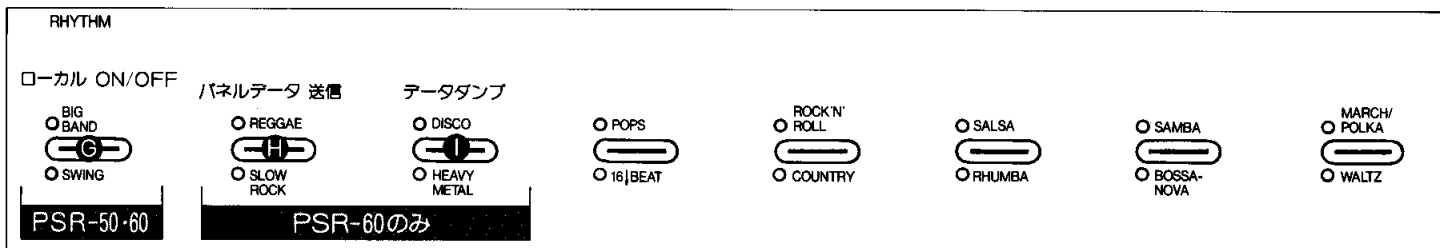
操作

<モード1>

1. MIDIモードのボタンを押しながらⒶ「ミュージックプログラマー送信モード1」のボタンをON。パイプオルガンのランプが点灯。
2. スレーブにしたキーボードのクロックをEXT.(エクスターナル)クロックにし、さらにリズムとシングルフィンガーコードをセット。
3. ミュージックプログラマーのプレイバックをON。演奏をスタートさせると同時に相手のキーボードも演奏をはじめます。

<モード2>

1. MIDIモードのボタンを押しながらⒷ「ミュージックプログラマー送信モード2」のボタンをON。ストリングスのランプが点灯。
2. スレーブにしたキーボードのクロックをEXT.(エクスターナル)クロックにし、さらにリズムとフィンガードコードをセット。
3. ミュージックプログラマーのプレイバックをON。演奏をスタートさせます。



① PSエクスクルーシブモード1 <PSR-60のみ>

標準MIDIで送信・受信できるプログラムチェンジ、コントロールチェンジはオーケストラのみですが、このモードにするとPSR-60のすべてのパネル状態を以下のようにチャンネル別のプログラムチェンジ、コントロールチェンジとして送信・受信できます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら①PSエクスクルーシブモード1のボタンをON。プラス2のランプが点灯。これで自動的にパネル状態がチャンネル別に振り分けられ、送信・受信可能状態になります。

☆各パートのチャンネルは次のとおり(変更はできません)。

CH1—オーケストラ(音色、サステイン・ボリューム)

CH3—ベース(音色、ボリューム)

CH4—ソロ(音色、サステイン、ボリューム)

CH5—コード(音色、ボリューム)

CH15—リズム(リズムの種類、ボリューム)

CH16—その他(テンポ、トランスポージャー、ピッチ他)

☆①②のモードでは、CH3、CH5のプログラムチェンジを利用して、ベースとコードそれぞれ16音色ずつの隠し音色を楽しめます。

No.	CH 3—ベース	CH 5—コード
1	ベース1	エレキギター
2	ベース2	ジャズギター
3	エレキベース1	ファズギター
4	エレキベース2	フォークギター
5	エレキベース3	バンジョー
6	チョップパーベース	ピアノ
7	チューバ	パーカス
8	ピアノ	チャイム
9	シンセベース1	プラス1
10	シンセベース2	プラス2
11	シンセベース3	アコースティオン
12	シンセベース4	ストリングス
13	ティンパニ	オルガン
14	ブラッシュ	ビッコロ
15	オルガン1	シンセ
16	オルガン2	ブラッシュ

② PSエクスクルーシブモード2 <PSR-60のみ>

このモードでは、①のPSエクスクルーシブモード1と同様に各パートがチャンネルごとに振り分けられ、加えて、そのチャンネルでキーノートの送・受信もできます。(各パートのチャンネルは①のモード1と同じです)

そこで、外部からのシーケンスによって各チャンネルの音源をコントロールすれば、完全自動演奏を楽しむことができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら②「PSエクスクルーシブモード2」のボタンをON。プラス&チャイムとプラス2のランプが点灯。

☆推奨のシーケンス用機器

- MSXパソコン {CX11} + {ミュージックコンポーザー[YRM-15]}
 {CX7M/128} + {MIDIレコーダー[YRM-31]}
- デジタルシーケンスレコーダー{QX-7}

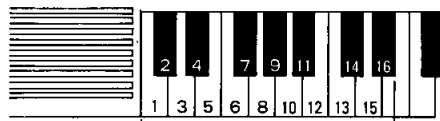
☆送信する場合は、1度にひとつのチャンネルしか選択できません。送信チャンネルの指定のしかたは〔基本編③チャンネル指定モード〕を参照してください。

●チャンネル別INT./EXT.切り換え

②のモードにすると、自動的に各チャンネルのキーノートがEXT.側にセットされ、MIDIからキーノートを送ってやることにより音がでる状態になります。(本体の鍵盤を押しても音はでません。)本体の鍵盤で音を出したい時は、鍵盤によってそのパートのチャンネルをINT.側にします。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら、下図のように鍵盤を押えると発音し、そのチャンネルのみINT.に切り換えられます。
- もう1度同じ鍵盤を押えると、今度は音が鳴らず、再びEXT.に戻ります。



切り換えたいチャンネルナンバーの鍵盤を押します。

☆INTにセットしたチャンネルはMIDIから受信することはできません。

③ キーノートオンリーモード <PSR-50・60>

マスターとスレーブの間で、コントロールチェンジ、プログラムチェンジの情報を送・受信したくない時に使います。キーノート、クロック以外のデータは一切送信・受信しません。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら③「キーノートオンリーモード」のボタンON。クラリネットのランプが点灯。

④ ローカルON/OFF <PSR-50・60>

このモードにすると、PSR-60本体からは鍵盤を押しても音が出なくなり、その演奏データを送信して接続しているキーボードのみが発音します。

操作

- MIDIモードスイッチを押しながら、リズムセクターの④「ローカルON/OFF」のボタンをON。ビッグバンドのランプが点灯するとローカルONの状態。

⑤ パネルデータ送信 <PSR-60のみ>

PSR-60どうし、またはコンピュータ、シーケンサーなどとMIDI接続している時、一瞬でパネル状態を送ることができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら⑤「パネルデータ送信モード」スイッチON。押した瞬間に2台のキーボードのパネル状態は同じになります。

⑥ データダンブ <PSR-60のみ>

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データを、もう1台のPSR-60のRAMに転送することができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら⑥「データダンブモード」のボタンをON。押した瞬間に演奏データが転送されます。

LET'S PLAY

☆最初のセッティング

	オートベースコード	リズム	オーケストラ	ソロ	Playing Note <PSR-60でミュージックプログラマーを> 使用する場合
PSR-60	●シングル フィンガーコード MIN MAX BASS VOLUME	●ロックンロール ●バリエーションON MIN MAX VOLUME	●エレクトリックピアノ ●サステインON MIN MAX VOLUME	●エレクトリックギター MIN MAX VOLUME	
PSR-50	MIN MAX CHORD VOLUME	SLOW FAST TEMPO	●プラス! (メロディーパートを演奏する場合)		

☆PSR-50の場合は、FILL IN③のところをFILL IN②で演奏しましょう。

あの娘とスキャンダル

作曲/芹澤廣明

オートベースコード
ROCK'N'ROLL + VARI

F G7 C G7

ソロ

オーケストラ E.PIANO + SUS

↑ FILL IN③

* C Am C Am F

E.GUITAR
(1× Tacet)

1. G7 C G7 2. G7 C to ♯

↑ FILL IN③

☆コードのおさえ方



↓ HAND CLAP ON

E7 Am Dm

↓ TRIO ON

↑ FILL IN①

G7 C E7 Am

↑ FILL IN①

F Fm G7

↓ TRIO OFF

F Fm C G7

↑ FILL IN③

D.S.

♩ Coda

C F G7 C

↑ FILL IN③

↑ FILL IN③

	オートベースコード	リズム	オーケストラ	ソロ
PSR-60	●シングル フィンガーコード	●ポップス ●バリエーションON	●エレクトリックピアノ ●サステイン 10N	●ピッコロ
PSR-50	BASS VOLUME CHORD VOLUME	VOLUME SLOW FAST TEMPO	●エレクトリックピアノ (メロディーパートを) 演奏する場合	

Playing Note

〈PSR-60でミュージックプログラマーを〉
使用する場合

1. コードをメモリー
2拍ずつ細かくコードが変わるので、難しかったらテンポをゆっくりにしてメモリーさせます。
2. ソロをメモリー
イントロはお休み。リズムスタートでコード再生させ、あわせてメロディーをメモリー。
3. オーケストラをメモリー
ストリングスに音色を変えるところでボリュームも変更します。(1×Tacet)ですからお休みしている間にパネル操作をしましょう。

ヒア・ゼア & エブリウェア

作曲/J.Lennon & P.McGartney

Here There and Everywhere

オートベースコード **POPS+VARI.**

ソロ **PICCOLO**

オーケストラ **E.PIANO+SUS.**

1 FILL IN

STRINGS+SUS.+TRIO

(1×Tacet)

1. D7 F7

2. D7 F7

1. D7 F7

2. D7

1 FILL IN

1 FILL IN

1 FILL IN

☆コードのおさえ方

©Copyright 1966 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England
Rights for Japan controlled by Shinke Music Publishing Co., Ltd., Tokyo
Authorized for use and distribution in Japan only

日本音楽著作権協会(出)許諾 第8570444-501号

	オートベースコード	リズム	オーケストラ	ソロ
PSR-60	●フィンガードコード	●スウィング ●バリエーションON	●クラリネット ●トリオON	●サキソフォン ●サステインON
PSR-50			●クラリネット ●デュエットON	

Playing Note

〈PSR-60でミュージックプログラマーを〉
使用する場合

1. コードをメモリー
フィンガードコードでメモリーさせます。オートベースコードのフィンガードコードをON。
2. オーケストラをメモリー
コードを再生させてメモリーさせます。コードと同時にスタートなので、リズムスタートのボタンを押さずに、すぐに演奏をはじめます。トリオONを忘れずに。
3. ソロをメモリー
コードとオーケストラのメロディー演奏にあわせて、メモリーさせます。

ムーンライト・セレナーデ

作曲/G.Miller

Moonlight Serenade

オーケストラ CLARINET + TRIO

ソロ SAXOPHONE + SUS.

オートベースコード SWING + VARI.

1. F Gm7 C7

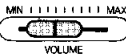
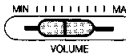


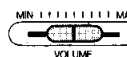
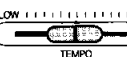
2. F D7 Bbm7 Eb7 A7 Am7⁻⁵ D7 Bm7⁻⁵

TRIO OFF

♩ Coda FM7

D.C.

☆最初のセッティング

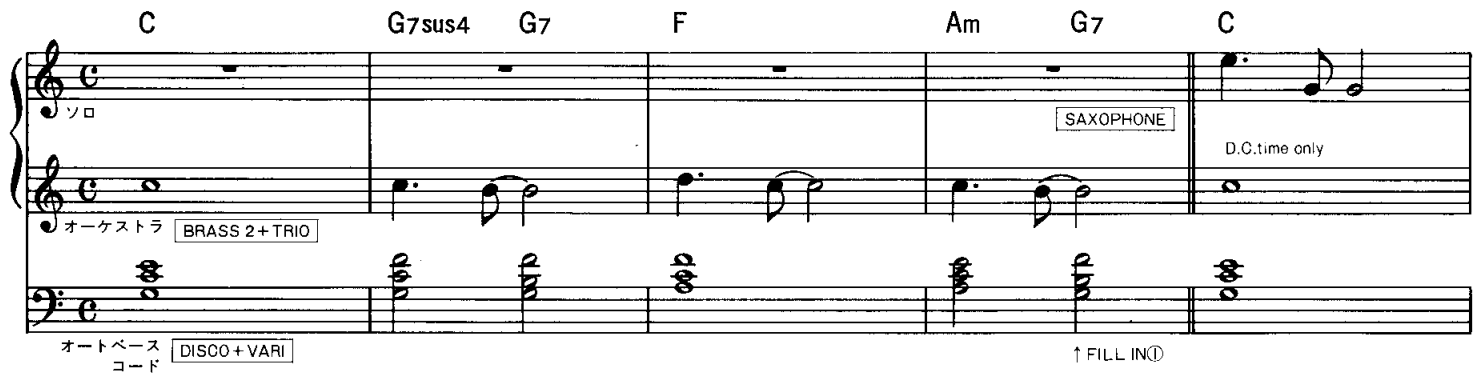
	オートベースコード	リズム	オーケストラ	ソロ	Playing Note <PSR-60でミュージックプログラマーを> 使用する場合 1. コードをメモリー フィンガードコードでメモリーさせます。オートベース コードのフィンガードコードをON。 2. ソロをメモリー 転調するところから音色が変わりますが、メモリーさせ る時に難しければ、再生の時に変更してもOK。 3. オーケストラをメモリー コードと同時にスタートなので、リズムスタートのボタンを 押さないですぐに演奏をスタートします。
PSR-60	●フィンガードコード	●ディスコ ●バリエーションON	●ブラス2 ●トリオQN 	●サキソフォン 	
PSR-50	 BASS VOLUME  CHORD VOLUME	 VOLUME  SLOW FAST TEMPO	●ブラス1 (メロディーパートを) 演奏する場合		

ネバーエンディング・ストーリー

Never Ending Story

作曲/G.Moroder & K.Forsey

C G7sus4 G7 F Am G7 C



ソロ

オーケストラ BRASS 2+TRIO

オートベースコード DISCO+VARI

SAXOPHONE

D.C.time only

↑ FILL IN①

G7sus4 G7 F Am G7 C



ソロ

オーケストラ BRASS 2+TRIO

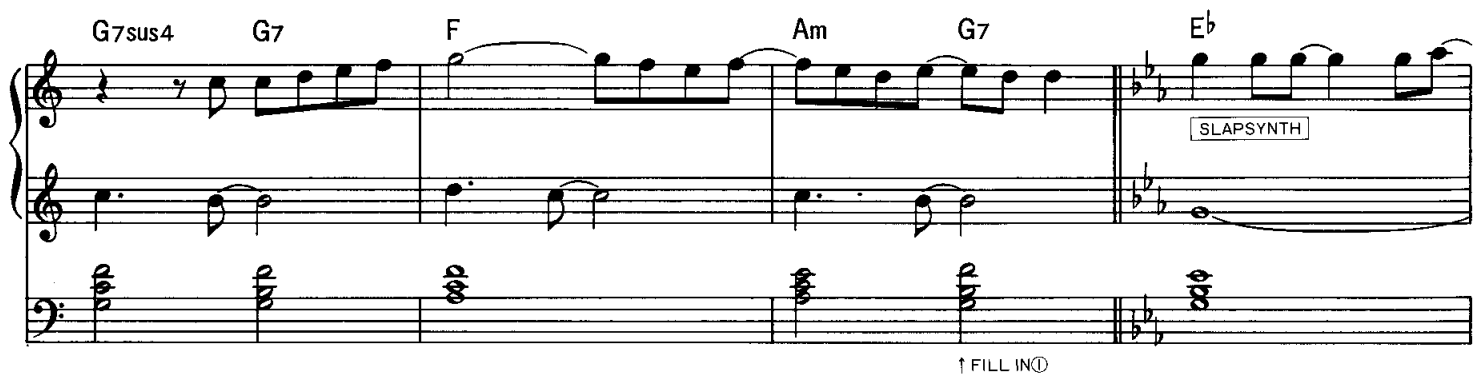
オートベースコード DISCO+VARI

SAXOPHONE

D.C.time only

↑ FILL IN①

G7sus4 G7 F Am G7 Eb



ソロ

オーケストラ BRASS 2+TRIO

オートベースコード DISCO+VARI

SLAPSYNTH

↑ FILL IN①

Chords: Eb, Ab, Bb, Eb

1コーラスめ、D.C.timeともplay

Chords: Cm, Ab, Bb, C, G7sus4, G7

Chords: F, Am, to G7

Chords: Coda G7, C

↑ FILL IN ① D.C.

Chords: G7sus4, G7, F, Am, G7, C

故障と誤りやすい現象

現象	原因	解決法
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
パワースイッチをす早くON、OFF、ONしたら音がでない。	ONにして、パイロットランプが点灯する前に電源を入れなおしたため。	もう1度OFFにしてからONしてください。
ソロ音色がでない。	ソロ・スイッチをONしていない。	6ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。
オーケストラ音色、またはソロ音色セクターで選んだ音色とは別の音色が出る。	①上下の選択をしていない。 ②オーケストラ、ソロのスイッチを押していない。 ③トゥロワーがONされている。 ④オートベースコードを使っている時、伴奏用の鍵盤で弾いている。	①②5~7ページの説明を読んで操作もれがないか確認してください。 ③7ページの説明をお読みください。 ④オートベースコードを使っている場合、オートベースコードの音色は、オーケストラ、ソロの音色セクターで選んだ音色とは関係ありません。
オーケストラ音色は9音押えても8音、ソロ音色は2音押えても1音しかでない。	オーケストラ音色は最高8音、ソロ音色は1音しかでないようになっています。(オーケストラ音色は、オートベースコードをONしている時デュエットをONしていると4音、さらにトリオにすると3音しかでないようになっています。)	オーケストラ音色は先に押えた音が優先。 ソロ音色は高音が優先します。
リズムの音がでない。	①スタートボタンがどちらも押されていない。 ②シンクロススタートボタンを押して、オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ③リズムボリュームが最小になっている。 ④MIDIクロックがEXT.になっている。	①②③8ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ④23ページの説明を読んでINT.にしてください。
リズムセクターで選んだリズムとは別のリズムが出る。	①上下の選択をしていない。 ②フィルイン・バーに触れている。	①8ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ②フィルインを使うと、リズムは変化パターンに切りかわります。
オートベースコードの音が出ない。または、リズムにのらない。	①シングルフィンガーコード、フィンガードコードのボタンがどちらも押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤をおさえていない。 ③コードとベースのボリュームが最小になっている。	10~13ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
メモリーを使って、オートベースコードで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤を指を離さずに弾いているため。	メモリーを使ったオートベースコード伴奏では、コードチェンジをするとき、一度指を離すようにしてください。
メモリーを使わないで、オートベースコードで伴奏しているとき、鍵盤から指を離すとリズムが止まってしまう。	シンクロススタートで演奏をはじめたため。	10~13ページの説明をお読みください。
(PSR-60) 鍵盤を押しても音色やリズムが鳴らない。	①キーボードパーカッションがONされている。 ②テープのセーブ、ロードがONされている。 ③PSエクスクルーシブ2がONされている。	①9ページの説明をお読みください。 ②セーブ、ロードのボタンをもう1度押してOFFにします。 ③25ページの説明をお読みください。
デュエットまたはトリオの音が出ない。	①オートベースコードを使用していない。 ②オーケストラのボリュームが上がっていない。	6ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
コードを押え変えたらデュエットまたはトリオの音が再発音する。	デュエット、トリオ音は、オートベースコードと連動しているため。	ご心配いりません。

■PSR-60のみ

	現象	原因	解決法
ミュージックプログラマー使用時	演奏どおりのメロディーを記憶しない。	オーケストラとソロは単音のみしか記憶されません。	最高音が優先され記憶されます。
	メモリーされない機能がある。	ミュージックプログラマーで、次のものはメモリーされません。 ●トウロワー ●テンポコントロール ●マスターボリューム ●フットスイッチを使用した場合のサステイン	16～19ページをお読みください。
	再生のとき、ソロ音色にデュエット／トリオがかからない。	①オーケストラも再生しているため。 ②再生の時、デュエット／トリオがOFFになっている。	①デュエット／トリオはオーケストラパートにメモリーされます。 ②パネルのデュエット／トリオをONにしてください。
	コード再生の時、最初の2小節間にメモリーしたコードが鳴らない。	イントロ／エンディングで再生をスタートしたため。	リズムスタートのボタンでスタートしてください。
	再生の時、各パートの出だしが合わない。	メモリーの時、演奏の開始のしかたがちがうから。	イントロ／エンディングでメモリーを開始したパートとリズムスタートで開始したパートでは、出だしがあわなくなります。先にメモリーしたパートを再生させながらメモリーするようにしましょう。
カセットインターフェイスがうまくいかない。	使用するデータレコーダの機種によって合わない場合があります。	20ページの説明をお読みください。(裏表紙記載の各電音サービスセンターにご相談ください。)	
セーブやロードのボタンを押してもランプがつかない。	ミュージックプログラマーのレコード、プレイバック、またはキーボードパーカッションがONになっている。	そのボタンをオフにしてください。	
MIDI接続時	スレーブのキーボードとリズムが同期しない。	スレーブのクロックがEXTになっていない。	スレーブのクロックをEXTにしてください。(24ページの説明をお読みください。)
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、スレーブのキーボードから音がでない。	送信チャンネルと受信チャンネルが、同じになっていない。	チャンネルを合わせてください。(23ページの説明をお読みください。)
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、スレーブのキーボードからソロの音がでない。	スレーブのキーボードにソロ機能がない。	ソロのないキーボードからソロの音はでません。
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、演奏途中でストップしたらスレーブが鳴りっぱなしになる。	スレーブのオートベースコードのメモリーがONされているため。	スレーブのオートベースコードスイッチ、またはメモリースイッチをOFFにしてください。
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、スレーブのオートベースコード音がおかしい。	①シングルフィンガーコード、フィンガードコードのスイッチを押していない。または誤っている。 ②モード3の時、オートベースコードのスイッチがONになっている。	24ページの説明を読んで操作もれがないかどうか、確認してください。

仕様

	PSR-60	PSR-50
鍵盤	一段鍵盤49鍵(C ₁ ~C ₅)	
オーケストラ 〈音色スイッチ〉	ジャズオルガンーピアノ、パイプオルガンーエレクトリックピアノ、ストリングスーハーブシコード、プラス1ーパイプ、プラス2ージャズギター、プラス&チャイムーハワイアンギター、クラリネットーミュージックボックス、(PSR-60)カリオペーコズミック / (PSR-50)シンセーコズミック	
〈音色コントロール〉	オンスイッチ、オーケストラ・ボリューム、サステイン1・2、ステレオシンフォニック、デュエット、トリオ、トゥロー	サステイン1・2、ステレオシンフォニック、デュエット
ソロ 〈音色スイッチ〉	ジャズフルートーエレクトリックギター、ピッコローパーカス1、バイオリンーパーカス2、トランペットーポップシンセ、トロンボーンーブルースシンセ、ホルンーファンクシンセ、サキソフォンースラップシンセ、オーボエーベース	
〈音色コントロール〉	オンスイッチ、ソロ・ボリューム、サステイン	
リズム 〈リズムスイッチ〉	ビッグバンドースウィング、レゲエースローロック、ディスコーヘヴィメタル、ポップスー16ビート、ロックンロールーカントリー、サルサーンバ、サンバーボサノバ、マーチ/ポルカーワルツ	
〈リズムコントロール〉	シンクロスタート、スタート、ストップ、イントロ/エンディング、バリエーション、テンポコントロール、テンポランプ、リズム・ボリューム、フィルイン1・2・3、フィルイン・タッチバー、ハンドクラップ1・2	シンクロスタート、スタート、ストップ、イントロ/エンディング、バリエーション、テンポコントロール、テンポランプ、リズム、ボリューム、フィルイン1・2、ハンドクラップ1・2
〈キーボード パーカッション〉	キーボードパーカッションスイッチ	
オートベースコード	シングルフィンガーコード、フィンガードコード、メモリー、オフ、コードボリューム、ベースボリューム	
ミュージック プログラマー	レコード(ソロ・オーケストラ・コード/ベース)、プレイバック(ソロ・オーケストラ・コード/ベース)、ポーズ、オフ <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> メモリー容量 ソロ : 1700バイト オーケストラ : 1700バイト コード/ベース : 1200バイト </div>	
テープ	セーブ、ロード	
その他のコントロール	パワースイッチ、パイロットランプ、マスターボリューム、トランスポザー(▲、▼)、ピッチコントロール(▲、▼)、MIDIモード	
付属端子	HEADPHONES JACK, SUSTAIN JACK, EXP. PEDAL JACK, DC IN(9-12V) JACK, AUX OUT L・R JACKS, MIDI IN-OUT JACKS, / (PSR-60) TAPE IN-OUT JACKS.	
メインアンプ	5W×2	2.5W×2
スピーカー	12cm(4Ω)×2	
定格電源	DC9-12V : 電源アダプターPA-4 : 単1乾電池6個	
消費電力	電源アダプター使用時 : 15W 乾電池使用時 : 9W (電池寿命 : 通常演奏で連続5時間以上)	電源アダプター使用時 : 8W 乾電池使用時 : 5W (電池寿命 : 通常演奏で連続10時間以上)
外装 〈本体材質〉 〈仕上げ〉	スチロール樹脂 アクリルラッカー塗装	
寸法 (間口×奥行×高さ)	982×281×94(mm)	
重量	6.7kg	6.4kg
付属品	電源アダプター(PA-4)、譜面立て	

PORTATONE PSR-60 PSR-50

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1985.5.28

Version: 1.0

ファンクション…	送	信	受	信	備	考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1	チャンネル ○	1	チャンネル ○		
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード 3 × *****		モード1 ポリ/モノ ×			
ノート ナンバー 音 域	36-84 *****		36-96 36-96			
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	×90H、V=64 ×90H、V=0		× ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		×			
コントロール チェンジ	7 64 ○ ○		○ ○			ボリューム サステイン
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○(0~15) *****		○(0~127) (0~15)			
エクスクルーシブ	○(PSR-50 : X)		○(PSR-50 : X)			
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×		× × ×			
リアル タイム クロック コマンド	○ ○		○ ○			
その他 ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ ○ ○			
備考						

モード 1 : オムニ・オン、ポリ モード 2 : オムニ・オン、モノ
モード 3 : オムニ・オフ、ポリ モード 4 : オムニ・オフ、モノ

○ : あり
× : なし

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1か年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間の1か年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。

責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項を一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けま

すのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 0252-43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL. 0878-22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター TEL. 052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL. 011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 0222-36-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL. 082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL. 0534-56-9211
(本社) 電音サービス部 技術課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534-65-1111

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1

TEL.0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル

TEL.03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館

TEL.06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL.052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL.092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター

TEL.011(512)6113

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル

TEL.0222(22)6141

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18

TEL.082(244)3744

浜松支店 / 〒430 浜松市鍛冶町321-6

TEL.0534(54)4116



YAMAHA